

〔論文〕

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (3)

近 藤 泉

名古屋学院大学国際文化学部

要 旨

犯罪映画・ミステリー映画について、日中の作品の比較を行う。このテーマについては、日中いずれにおいても、先行研究が存在しない。調査するのは2010年～2018年の9年間とし、両国とも各年度の興行収入ランキング上位の計約40本の作品を調査対象とし、日中計80本ほどのすべての作品について、58の項目について該当するか一つ一つチェックし、表を作成した。日中の表を比較することにより、できるかぎり客観的に日中の作品の比較を行う。ページ数の都合により、論文は数回に分け発表、1回目は中国の作品に関する部分を、2回目は日本の作品に関する部分の前半を掲載した。3回目の今回は、日本の作品に関する部分の後半を載せるとともに、作成した表などを使いつつ、日中の比較をする。日中の比較はVol.34 No.2にも続ける。これにより、日中の映画の比較ができることはもとより、両国の社会や人々の意識の違いをも見て取ることができるはずである。

キーワード：日中比較，犯罪映画，ミステリー，映画

A comparison of Japanese and Chinese crime and mystery films (3)

Izumi KONDO

Faculty of Intercultural Studies
Nagoya Gakuin University

1. はじめに

本論文は、日本と中国の犯罪・ミステリー・推理関連映画を比較するものであり、2010年～2018年の9年間に公開された映画を中心に比較する。

日中の比較にできる限り客観性を持たせるため、中国の作品としては、中国における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング（大陸以外・外国の作品を含むランキング）上位100位までに入った犯罪関連映画37本、日本の作品としては、日本における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング（外国の作品を含むランキング）上位30位までに入った犯罪関連映画43本を取り上げ、両国合わせて計80本の映画により日中の比較を行う。

また、本論文で扱う中国映画は、大陸の映画に限定する。香港映画にも警官・警察や犯罪組織などが登場する映画は多いが、そうした大陸以外の映画は含まない。なお、大陸と香港の合作（そもそも、1997年に香港が中国に返還されてから、香港映画は大陸資本に依存するようになり、また香港映画界の人材が大陸に活躍の場を求め、大陸と香港の境が不分明になっているが。）、中国と外国の合作などの場合には、とりえず監督が中国（大陸）の監督である場合のみ、中国（大陸）の作品として本論文で取り上げた。

本論文「犯罪・ミステリー映画の日中比較（1）」「犯罪・ミステリー映画の日中比較（2）」において明示し忘れ、大変申し訳ないが、本論文では、中国映画は基本的には中華人民共和国成立後を舞台とする作品、日本映画は戦後を舞台とする作品のみについて扱った。したがって、例えば中国の前近代を舞台とする時代物・歴史物、民国時代の戦争や内戦の時代を背景とするものなどは、除外されている。

なお、本論文は日中の映画の比較をし、その違いを明らかにするものであるが、日中の違いと言っても、傾向としての違いが明確に見られればそれを違いとして取り上げる。中国のミステリー・推理ものは、そもそも欧米や日本など海外の作品の影響を大きく受けている。中国では、小説においては、1980年代以来日本の推理小説は人気があったし、2010年代、特にその後半には、東野圭吾の人気が極めて高く（中国における各年度の外国人作家印税ランキングでは、東野圭吾は、2014年12月発表の第9届外国作家榜〈第9回外国作家ランキング〉から2016年3月発表の第10届外国作家榜〈第10回外国作家ランキング〉までにおいては第2位、2017年4月発表の第11届外国作家榜〈第11回外国作家ランキング〉から2019年年4月発表の第13届外国作家榜〈第13回外国作家ランキング〉までにおいては第1位である。）、それ以外の日本のミステリー作家の作品も多く翻訳されて読まれている。また、アニメでは例えば名探偵コナンなどの推理もののアニメもよく見られている。また、小説をはじめとして、日本・中国とも欧米の影響を受けている。中国と日本のミステリー作品が全く懸け離れたものであるということはありません。ただ、日中の作品に傾向としての違いは確かに存在しており、本論文はそれを明らかにしようとするものである。

本テーマについては、日中いずれにおいても、先行研究が存在しない。

ページ数の都合により、論文は数回に分け発表、1回目は中国の作品に関する部分を掲載し、2回目は日本の作品に関する部分の前半を掲載した。3回目の今回は、日本の作品に関する部分

の後半を載せるとともに、作成した表などを使いつつ、日中の比較をする。枚数の都合上、今回で終わりとせず、日中の比較はVol.34 No.2に続けることとする。これにより、日中の映画の比較ができることはもとより、両国の社会や人々の意識の違いをも見て取ることができるはずである。

前前回、『名古屋学院大学論集（言語・文化篇）』Vol.31 No.2において、中国の2010年から2018年にかけての毎年度の興行成績ランキングの上位（外国映画・香港映画・台湾映画をも含む上位100位までに入るもの）の犯罪関連映画37本について、以下の58項目についてチェックし、表を作成した。

- 1 探偵が登場する。
- 2 探偵が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 3 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。
- 4 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 5 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。
- 6 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 7 プロの探偵が華麗に推理する。
- 8 プロの探偵が華麗に推理する。自国を舞台とする作に限定。
- 9 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）
- 10 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。自国を舞台とする作に限定。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）
- 11 推理・謎解きが重要な要素の本格推理。
- 12 視聴者は最初から犯人を知っている。
- 13 探偵・探偵役の人物ないし警察官が、皆の前で推理した内容を披露する。（推理内容が正しい、ないしほとんど正しい場合は◎。間違った推理が披露された場合も、正しい推理内容を推理する場面が後にあれば◎。）
- 14 警察官が主人公であったり警察組織を描くなどの警察もの。
- 15 警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）
- 16 警察組織の問題点に触れている。
- 17 警察と犯罪組織の対立、ないし警察による犯罪組織摘発をメインに描いている。
- 18 犯人を追い詰める警官や探偵などの心の苦しみをも描く。
- 19 犯人の善良な面をも十分描いている。
- 20 犯人の苦しみをも十分描いている。
- 21 犯罪者の内面に目を向け、犯罪に至らざるを得なかった過程を十分に描いている。

- 22 犯人が主人公。(犯人の立場から描く。)
- 23 無実の人物が、他人を庇い、その身代わりとなって、自分が犯人だと偽りの自首をする。
- 24 社会性のある題材を扱い、犯罪が起きた社会的背景をもしっかり描いている。
- 25 犯人に意外性がある。
- 26 犯罪方法やトリックに意外性がある。
- 27 凶器に意外性がある。
- 28 意外性が、犯人が誰であるかや、犯罪方法のトリックや特殊性以外にある。
- 29 犯罪が残虐、ないし猟奇的。サイコ性がある。
- 30 不気味、ないしホラー性がある。
- 31 連続殺人事件。
- 32 密室殺人事件。
- 33 科学的鑑定の場面がある。(プロファイラー以外)
- 34 プロファイラーが登場。
- 35 犯人が精神障害。
- 36 快楽殺人・快楽犯罪(殺人未遂を含む)。
- 37 ゲーム的殺人・犯罪や、劇場型の殺人・犯罪。(殺人未遂を含む)
- 38 怨恨や復讐のための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 39 他人への妬みないし社会的疎外感による殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 40 男女間の愛のもつれにより相手に行う殺人や犯罪(殺人未遂を含む)。
- 41 金銭ないし地位目当ての殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 42 口封じのための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。(自分の犯罪以外について他人に知られないための口封じをも含む。)
- 43 自分自身の欲望のためではなく、社会をよくする、ないし悪くしないためと考えての殺人・犯罪。
- 44 自分自身の欲望のためではなく、自分以外の誰かのための殺人・犯罪。(復讐は含めない。)
- 45 誘拐や監禁。
- 46 麻薬の売買。
- 47 企業・ビジネスがらみの犯罪を描いている。
- 48 テロリストによるテロ。
- 49 犯罪動機にオリジナル性。
- 50 他殺はなかった。(自殺、事故、未遂、その他のみ)
- 51 毒物の知識など実際の犯罪に役立てられそうな情報が入っている。
- 52 アクションが重要な要素として存在。
- 53 法廷推理もの。
- 54 スパイもの。(警官による潜入捜査は含まず。)
- 55 警官による潜入捜査がある。

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (3)

56 **トラベルミステリ。観光地・景勝地での旅情もの。**

57 時刻表もの。

58 コメディ性がある。

中国の犯罪映画の表は、以下の通りである。(表中の○・×などは、判断に主観の入らざるを得ない微妙なものもあり、絶対的に客観的に正しいものというのではなく、あらましの目安である。)

表 1

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
年度	2018					2017					2016					2015					2014	2013	2012					2011					2010				
大陸年度興行収入ランキングベスト100中、大陸制作作品（中国大陸以外との合作の場合、大陸の監督の制作によるものに限る。）の本数	32					37					30					40					40	23	25					33					30				
順位	二	四〇	四二	九八	九九	四四	五〇	五二	五九	六〇	七九	四〇	九四	九七	一一	四五	五九	八九	六七	九二	二七	三七	四三	六八	八三	九八	三八	七六	九四	九七	九八	三二	四六	六二	八〇		
映画名	唐人街探案2	“大”人物	江湖儿女	龙吻刑警	(机器之血:SF)	心理罪	记忆大师: SFでもある。	(解忧杂货店:日本原作)	心理罪城市之光	绑架者	火锅英雄	追凶者也	惊天大逆转	捉迷藏	老炮儿	唐人街探案	解救吾先生	黑猫警长之翡翠之星:アニメ	白日焰火	笔仙惊魂3	无人区	全民目击	二次曝光	HOLD住爱	边境风云	笔仙惊魂	孤岛惊魂	硬汉2:捧腹到底	密客之不可靠岸	床下有人	B区32号	西风烈	决战刹马镇	黑猫警长:アニメ			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
1	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
2	／	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
3	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○推理小説作家	×	×	×	×	○推理小説作家			
4	／	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○同上	×	×	×	×	○同上	×		
5	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
6	／	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
7	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	△別記			

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
8	／	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	／	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△同上	×	×	×	×	△同上	×
9	×	◎別記	△	△	◎別記	◎別記	◎?別記	◎	×	○	△	◎?別記	◎	◎別記	△	×	○	◎(○)別記	◎別記	◎?別記	△	△	△	／別記	◎別記	△(○)	△(○)	△(○)別記	△	◎	△	△	△	△	△	◎
10	／	◎同上	△	△	◎同上	／	◎	／	◎	×	○	△	◎?同上	／韓国が舞台	◎同上	△	／	◎	◎(◎)同上	◎同上	◎同上	△	△	△	／同上	◎同上	△(○)	△(○)別記	△	◎	△	△	△	△	△	◎
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
11	◎	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	×	△別記	×	×	◎	×	×	○	△	△	△	×	△	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	◎	×
12	×	○	×	×	△別記	○	×	×	×	○	×	△	×	×	×	○	△別記	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	
13	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	◎別記	×
14	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	◎別記	×	×	×	○	◎別記	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	
15	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	○	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
16	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
17	×	◎別記	×	×	○	○	×	×	×	×	×	△(△)	×	×	×	×	×	◎別記	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
18	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
19	×	◎別記	×	○	×	◎別記	×	×	◎	×	×	△(△)別記	×	×	×	×	◎	◎別記	×	×	×	×	◎別記	◎別記	△(△)別記	×	○	◎別記	×	◎別記	×	×	×	×	×	
20	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
21	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
22	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	△(△)別記	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△別記	×	×	×	×	×	△別記	×	×
23	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
24	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
25	◎	×	○	×	△別記	×	◎別記	×	×	○	×	△別記	◎別記	○	×	◎別記	△別記	×	×	×	△	×	○	△別記	×	×	×	×	○	×	◎	×	○	×	◎別記	×
26	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	△	×	
27	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	
28	×	×	×	×	×	×	○	○	◎	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	◎別記	×	△別記	△別記	×	◎別記	◎別記	×	×	×	◎別記	×	×	◎別記	×	×
29	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (3)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
30	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	◎	◎	×	×	○	◎	×	×	○	×
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
31	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	
32	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	
33	○	×	×	×	×	×	○	×	△	×	×	×	△	×	×別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×別記	×	×	×	×	×	×	○	(△)	
34	○	×	×	×	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
35	×	×	×	×	×	×	○	×	△	×	×	×	×	×	○?別記	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
36	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
37	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
38	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×別記	○(?)	×	○	○	×	×	○	×	○	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×	
39	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
40	×	×	×	×	×	×	×別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
41	×	×別記	○	×	○麻薬売買	△別記	×	×	×	×	○別記	○	○	○	○?	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×	○別記	○	×別記	×	○	×	×	×	○	×	○別記	
42	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○別記	○未遂	×	○別記	○	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	○別記	×	×	×	○別記	×	
43	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
44	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×別記	×	×	×	○別記	×	×	×	×	
45	×	○別記	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	○(○?)	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	
46	×	△別記	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
47	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
48	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
49	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
50	×	×別記	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟		
51	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	△別記	×	×	△別記	△別記	×	×	×	×	
52	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	△	×	○	○	○	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○	×	△	○	×	×	○	△	×	○	
53	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
54	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
55	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
56	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
57	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

[illegible]

日本の犯罪映画の表は、以下の通りである。

表 2

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㋀	㋁	㋂	㋃	㋄	㋅	㋆	㋇	㋈	㋉	㋊	㋋	㋌	㋍	㋎	㋏	㋐	㋑	㋒	㋓	㋔	㋕	㋖	㋗	㋘	㋙	㋚	㋛	㋜	㋝	㋞	㋟	㋠	㋡	㋢	㋣	㋤	㋥	㋦	㋧	㋨	㋩	㋪	㋫	㋬	㋭	㋮	㋯	㋰	㋱	㋲	㋳	㋴	㋵	㋶	㋷	㋸	㋹	㋺	㋻	㋼	㋽	㋾	㋿	㌀	㌁	㌂	㌃	㌄	㌅	㌆	㌇	㌈	㌉	㌊	㌋	㌌	㌍	㌎	㌏	㌐	㌑	㌒	㌓	㌔	㌕	㌖	㌗	㌘	㌙	㌚	㌛	㌜	㌝	㌞	㌟	㌠	㌡	㌢	㌣	㌤	㌥	㌦	㌧	㌨	㌩	㌪	㌫	㌬	㌭	㌮	㌯	㌰	㌱	㌲	㌳	㌴	㌵	㌶	㌷	㌸	㌹	㌺	㌻	㌼	㌽	㌾	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗	㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝	㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣	㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩	㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯	㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵	㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻	㏼	㏽	㏾	㏿	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃	㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉	㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏	㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕	㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛	㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡	㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧	㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭	㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅	㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋	㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑	㏒	㏓	㏔	㏕	㏖
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (3)

[illegible]

[illegible]

2. 本論

2.3 日本の作品について（後半）

以下に、日本の各作品それぞれについて、そのあらましの内容、日中比較の観点から特筆すべき点、及び表2における注記事項を記載する。ただし、前回すでに29作品目までについて記載して

おり、今回は残りの30作品目以降についてのみ記載することとする。

③⑩ 名探偵コナン・11人目のストライカー

今回のスタジアム爆破事件の真犯人は、かつてプロサッカー選手の道を諦めた中岡だった。しかし、中岡が事件を起こしたのは、自らのサッカー生命が絶たれたからではなく、すでに亡くなっていた子供、本浦知史と関係があった。中岡は子供好きで、自主練習中に知史と知り合い、心を通わせた。しかし、中岡はバイク事故を起こして、サッカーできない状態になってしまう。サッカー選手を辞めようかと考えていた時、知史が唯一出場した試合でゴールを決めた。それを見た中岡は、もう一度頑張ってみようと考え直す。しかし、病弱な知史は発作を起こして救急車で搬送される。そのちょうど同じ時間に、毛利小五郎がスタジアム近くで倒れた老人を助けるため、やはり救急車を呼んでおり、知史を乗せた救急車がスタジアムの方に近づいて来た時、小五郎やサポーターたちは、自分の呼んだ救急車が道を間違えているのだと早合点して搬送の邪魔をしてしまった。二分ほどではあったが、知史の搬送が遅れてしまった。それが原因かは不明だが、知史は亡くなった。中岡は、知史を小五郎やサポーターらに奪われたと逆恨みし、スタジアム爆破計画を立てたのだった。

中岡の行為は、許されぬものとして描かれている。彼は善人として描かれてはいない。コナンも中岡に、「夢破れ逃げた挙句、知史君の死を利用して、他人に怒りをぶつけているだけじゃねいか。……勝手に自分の限界を決めつけて、夢を諦めちまった臆病者だ」「すべてを他人のせいにし、自分の都合の悪いことは全部うそだと言って、ぶち壊そうとする、とんでもねえわがまま坊主だ」と言っている。しかし、中岡は非常に知史思いであり、その優しい部分もしっかり描かれている。また、彼はコナンに「早く逃げな、小僧。お前には恨みはない」とも言っている。コナンに色々批判されたにも関わらず、最後にコナンに「十一人目のストライカーはおまえだったんだな」と、コナンを認め褒める。中岡は完全な悪人としては描かれていない。犯罪者が必ずしも悪人として描かれていないという点は、中国映画には少なく日本映画には多く、日本的なものであるように思われる。

5:× いかにも無能というほどではないが、コナンに全く及ばない。なお、毛利小五郎は、引き立て役の無能な探偵。

7:△? 映画①の7と同じ。

9:× いかにも無能というほどではないが、コナンに全く及ばない。

13:△ 犯人中岡に向かって一対一で言う。本浦の家では、途中段階で断片的ながら、皆の前で優れた推理を話す。

③⑪ 劇場版 SPEC ～天～

主人公当麻紗綾は、警視庁公安部公安第五課未詳事件特別対策係という特殊能力者スペックホルダーの起こす事件を取り締まる部署に所属する警察官であり、かつ自分自身がスペックホル

ダーでもある。スペックのない人類を敵とみなして暴走するスペックホルダーたちと戦う。

当麻は、スペックホルダーであるニノマエのクローンや伊藤淳史と対決、二人を倒す。伊藤が当麻に「まいりました」と言う、当麻は「もうすぐ救急車が来る。待ってな」と言う。伊藤は、「お気遣い、感謝です」と礼を述べる。ニノマエのクローンは息を引き取ったが、当麻は地面に横たわるニノマエのクローンの死体に向かってかがみこみ、「あなたも犠牲者の一人。あなたを作った奴らが、本当の敵だ」と言う。

「～天～」における最強の悪役であるニノマエのクローンを含め、「～天～」に登場するスペックホルダーたちは、みな完全な悪人としては描かれていない。(ただ、「～天～」にはまだ姿を現さない「本当の敵」は、まだ姿を現さないながら、存在していることになる。)

そもそもスペックを持たぬ人間は、スペックホルダーの殲滅を目指し始めている。スペックホルダーたちがそれに反撃するのは当然ともいえる。当麻自身、スペックホルダーも人間であるにもかかわらず、彼らがただ生きようとするをも許そうとしない警察のやり方に対し、強い疑問・不満を述べることもある。この作品は、恐るべきスペックホルダーらを悪として決めつける作品ではない。

ニノマエのクローンは、当麻に、「警察なんて体制を守る体のいいやくざでしょ。そこに正義はない」と言う。最初の方でスペックホルダーに憑依された警視総監と内閣広報官が登場するが、威厳も何もなく、いかにも馬鹿にされたような描き方をされており、警視総監は当麻に、また情報を隠蔽しているっぽいと言われ、それに答えぬまま、内閣広報官とともに逃げてしまう。(ただし、警視総監はニノマエの人質になり生命の危機に晒された折、警官たちに、自分は死んでも屈しない、君たちのミッションに専念しろ、と言う。警視総監が100%批判的に描かれているわけでもない。)今回調査した中国の映画の中に、警察幹部や国家の幹部をこのように批判的に描く箇所のある作品は、一つもない。

なお、日本映画に警察に批判的な部分があっても、中国映画にそれが無いのは、中国の映画審査制度が大きく関係していると思われる。『电影剧本(梗概)备案, 电影片管理规定』第十四条に以下の規定がある。「电影片有下列情形, 应删剪修改(映画作品に下記の状況があれば, 削除して修正しなくてはならない。): …… (二) 恶意贬损人民军队, 武装警察, 公安和司法形象的(悪意をもって人民の軍隊・武装警察・公安と司法のイメージを損なうもの)」

9・10 ? 警察官の推理能力については判断が難しい。特殊能力者スペックホルダーである主人公・警官当麻は、警官と言うよりスペックホルダーとしての能力により、強い推理能力・格闘能力を持つ。当麻・瀬文・野々村ら警官は、強い刑事魂を持つ。

14: ○ 主人公は超能力スペックを有する刑事。

17: △ 警察といった国家権力その他の組織とスペックホルダー組織の戦いを描く。

43: ○ スペックホルダーたちは、スペックホルダー抹殺の動きに対抗しようとして反旗を翻している。

48: ○ 国家権力に抹殺されていくスペックホルダーたちによる権力掌握のためのテロ。

③② 悪の教典

有能で人気のある学校教師が、自分を疑った者や邪魔に思った者を秘密裏に次々に抹殺していくサイコキラー。他の教師や生徒の親を殺し、またクラスの生徒ほぼ全員を殺害。

中国ではありえないショッキングなストーリー。中国では到底審査を通らない内容と思われる。

なお、中国の映画審査に関わる法令『电影剧本〈梗概〉备案，电影片管理规定』第十四条には、「电影片有下列情节，应删剪修改。（映画に以下のストーリーがあれば、削除して修正すべきである。）……（四）……有强烈刺激性的凶杀，血腥，暴力，……等情节；……；有过度惊吓恐怖的画面，台词，……；（……強烈な刺激のある虐殺，血生臭さ，暴力，……等のストーリー：……；過度に人を怯え恐怖させる画面，セリフ，……；）」とある。

③③ ステキな金縛り

三流弁護士の宝生エミは、ある殺人事件を担当する。被告は、妻殺しの容疑をかけられていたが、事件当夜、旅館の部屋で金縛りに遭っていたと無罪を主張。エミは、事件当夜に被告の上にまたがっていた落ち武者の幽霊に、法廷で証言させる。三流弁護士と落ち武者の間に友情が生じ、エミは落ち武者の力を借り、また殺された被告の妻の姉をも呼び出し、最終的に、殺されたはずの被告の妻は、自分の浮気相手の妻である姉を殺し、その瓜二つの姉になりすましている、ということを明らかにする。

9・10 ○ただし警官ではなく検察官。

③④ SP革命編

主人公はSPの井上。上司の尾形は、実は仲間、及び彼らを支援する与党幹事長の伊達らとともに、国家を変革させる革命を起こそうとして失敗。革命側には、その息のかかったSPチームや革命側の高級官僚たちもいた。革命が失敗すると、革命側の高級官僚たちの集まっていた邸宅は、何者かが仕掛けた爆弾により吹っ飛び、彼らを逮捕できない。より大きな力が関わっていることが推測される。これは、SPのリーダーや有力政治家による国家転覆の計画の話であり、政府にとって危険なこのような作品は、中国では制作は許可されることはありえないであろう。実際、中華人民共和国の時代の中国についての国家・政府転覆の計画・陰謀に関わる中国映画を見ることはない。

38：○ 尾形や伊達の総理への復讐。

③⑤ 相棒一劇場版Ⅱー 警視庁占拠！特命係の一番長い夜

にせのテロ事件を自作自演で捏造して公安部の存在意義を示そうとした警視庁の「影の管理官」長谷川宗男副総監。

にせのテロ事件の巻き添えで死んだ警官（磯村）の無念を晴らそうとした八重樫による内部告

発の告発文と、それを握りつぶした警視総監以下12名の警視庁幹部。（下記籠城事件の人質全員に当たる。）

八重樫は、組織の暗部に斬り込み真実を明らかにしようとして、警視庁で警視総監はじめ幹部12人を人質とした籠城事件を起こした、殉職警官磯村の婚約者であった警視庁総務部警官朝比奈圭子（元公安部警官）と友人の元警視庁巡査部長八重樫哲也。（八重樫は一人で事件を実行するが、制圧され、人質無事のまま射殺される。）

籠城事件が起きた際、松下警視監・鈴木警視長と示し合わして八重樫を殺害した長谷川副総監。（自分にとって都合が悪い存在の八重樫を、口封じのため殺害した。）

人質12名は、誰が八重樫を撃ち殺したのか曖昧にし、正当防衛として事件を処理しようとする。（なお、記者会見で、記者たちは警視庁側の正当防衛だとの発表を疑い、過剰防衛ではないかと怒る。）

上記の警視庁の不祥事をネタに、警視庁に対する警察庁の優位性を確立したい金子文郎警察庁長官。

警察庁長官に恩を売ると共に、警視庁幹部を脅し警視庁を抑えることで警察組織を牛耳り、警察庁を省へ格上げさせ、新しい警察機構を構築しようと目論む小野田官房長。（彼は今回の事件の内実を表面化させることなく、政争の具としようとする。彼は絶対的な正義などないと思う。）また、彼は部下に違法に警視庁管理室を盗聴させる。

自分より下の特命係に対しては、非常に失礼な強圧的な話し方をする一方、自分より上の幹部への事情聴取においては、幹部たちにペコペコして腰が引けて真相を深く追求しようとすることもなく、90度を超えて深々と頭を下げる警視庁参事官。

あくまでも真実と正義にこだわり、警察の使命は真実を明らかにすることと考え、これら全ての犯罪行為を白日の下に晒そうとする杉下右京。

表に出せない公安案件を扱う「影の管理官」長谷川副総監を殺害しようとする朝比奈。（「影の管理官」は、曹良明を協力者として送り込んで偽のテロ事件を起こさせていた。）

朝比奈に嘘の供述をさせる大河内監察官。

懲戒解雇となって小野田官房長を刺殺する三宅警視長。（彼は、これまでもその立場を利用して、罪のもみ消しなどを多く行ってきていた。）

杉下ら特命係は真実を明らかにしようと努めるが、警察幹部をはじめとした彼ら以外の主要登場人物たちは、おおむね犯罪者ないし倫理的に問題のある人物であるといえる。

警察をこのように倫理に欠き犯罪に満ちた問題だらけの組織として描く作品は、中国（大陸）には存在しない。しかも幹部中の幹部までが、問題のある存在として描かれている。中国では、映画の審査において、このような映画が許可されることはありえないであろう。

38：○ 八重樫（・朝比奈）による人質事件、三宅による小野田官房長刺殺

42：○ 長谷川副総監らによる八重樫殺害

43：○ 長谷川副総監らによる偽のテロ事件捏造、官房長による管理室盗聴など

③⑥ 名探偵コナン・沈黙の15分

犯人については、山尾一人でなく、みずきも犯人であったことに一定程度以上の意外感あり。

犯人の一人は山尾。宝石店強盗を働き、宝石店社長を殺害し、なつきを車でひき逃げし、宝石を取り戻すため、ダムを爆破。また、ダム爆破のため、電話基地局・携帯基地局を爆破、ダム職員や武藤をスタンガンで気絶させる。邪魔をするコナンをも殺そうとする。

他の犯人はみずき。8年前、妹を突き飛ばし、妹が山尾の車に引かれる原因になってしまったのを冬馬に見られ、口封じしようとする。冬馬が意識を取り戻してから、冬馬や冬馬とともにいる少年探偵団の子供らを追い、銃撃しようとする。

(なお、本作品の犯人として重要性は比較的低いが、宝石店強盗について山尾を脅して宝石の分け前を得ようとした氷川も、犯罪者である。)

山尾は、明らかに悪人として描かれている。

それに対し、みずきは必ずしも悪人として描かれているようには見えない。みずきは、妹を突き飛ばし、それがもとで妹は命を落とすことになったが、ちょっと痛い目に遭わせようとしただけで、殺すつもりではなく、ちょうどそこに山尾の車が走って来たにすぎなかった、また、冬馬や少年探偵団の子供らを殺すつもりもなかった。コナンも、みずきがもう誰も傷つけようとしていなかったことは分かっている、みずきは銃で遠くから山尾の肩を撃ち、かつ落ちた猟銃を正確に撃ち飛ばす腕があり、その気があれば、自分たちを確実に撃てたはずだ〈が、そうしなかった〉、と言っている。また、山尾に殺されようとしていたコナンの命を救ったのも、みずきである。「ごめんさい」と言って涙を流しつつ謝るみずきの姿は、悪人の姿とは言いがたい。((ただし、物語設定にやや無理があるように思われる。みずきは冬馬を遠ざけたかっただけだと言うが、銃で冬馬や少年探偵団の子供ら、コナンや灰原に向けて発砲したことは確かであり、口封じのためでもないのに発砲するというのはあり得ないことに思われる。)) また、自分が犯人であると皆に知られてからも、雪をかき分けて、雪崩に埋まったコナンを皆と一緒に必死で探す。犯人が必ずしも悪人ではないとする設定は、中国の犯罪映画には少ないが、日本の犯罪映画にはよく見られるものである。

5:× 毛利小五郎は、引き立て役の無能な探偵。

7:△? 映画①の7と同じ。

13:○ 冬馬や灰原・少年探偵団の子供らの前で。犯人や警官などはその場にはいなかった。ただし、推理内容に誤りもあった。

19:△ (山尾については×。みずきについては○か△。)

25:△ (犯人は武藤ではないというのは、予想しやすい。) 山尾が犯人の一人だが、8年前に冬馬を、そして今回は冬馬や少年探偵団の子たちを追って銃で撃とうとしたのは、何とみずきだった。

41:○ 山尾による以下の犯罪:宝石店強盗(宝石店社長殺害)。宝石を取り戻すためのダム爆破、そのための携帯・電話基地局爆破、武藤・ダム職員に対するスタンガン襲撃、地下鉄爆破、等。なお、氷川による山尾脅迫も宝石の山分けのため。

42：○ 山尾が氷川を殺害したこと。みずきが8年前目撃者の冬馬を追ったこと。みずきが冬馬や少年探偵団の子供らを追い銃撃したこと。

③7 アンダルシア 女神の報復

神足は、正義のため内部告発しようとして飛ばされたエリート刑事であり、左遷され、インターポール捜査官としてアンドラに出向した。警視総監の息子でマネーロンダリングに関わった川島の犯罪を隠蔽すれば帰してくれると、警察上層部から言われている。

黒田は、真実を探ろうとする外交官（邦人テロ対策室所属）であり、現地大手銀行に勤め川島の遺体の第一発見者である（実はそれになりすましていた）邦人女性新藤を守ろうとする。新藤は川島の事件に関わっており、黒田は、神足と同一の事件に関わることになる。

川島の運用していた資金は、広域暴力団の資金であり、川島は総理大臣の政治団体の顧問会計士でもあった。彼がマネーロンダリングの片棒を担いでいたとなると、政権をも揺るがす不祥事となる。そのため、総理大臣は日本の外務省にも手を引くよう圧力をかけ、外務省から黒田に圧力がかかる。しかし、外務省から圧力がかかっても、黒田の姿勢は全くぶれることはなく、彼は手を引くことを断る。

黒田は、組織の命令に従おうとする神足に、神足が組織を裏切ったのではなく、組織が神足を裏切ったのだ、しっかりと目を見開いていないと何が正義か分からなくなると言い、神足を良心に従って行動させようとする。神足は「勘違いするな。私は組織の人間だ」と言うが、迷いつつも、最終的には、組織の命令には従わず、良心に従い、黒田と協力して、ビクトル銀行と国際テロ組織ARMを結び付けたブローカーの「ルカス」を逮捕する。

国のトップの政治家（総理大臣）や警察幹部、そして圧力によりやむなくとはいえ外務省までもが、犯罪を隠蔽しようとした。総理大臣や警察幹部などは、自己の保身のためにそれを行っているのである。国のトップの政治家や警察などをこのようなモラルに欠き違法なことをするものとして描くのは、日本ではありえても、中国（大陸）では、政治的制約からありえないものである。（なお、この作品においては、現地警察にも、犯人側のスパイをしている警察官がいる。）

また、神足は組織の一員として、上（具体的に誰であるかは不明。）から不条理な命令を受けて悩んでいる。（そもそも彼は、東大卒のキャリア刑事だったが、警察を内部告発しようとして左遷された人物である。）黒田は自らの信念・行動にぶれがないが、彼も組織の一員として動くように上司から命令されている。黒田に命令する外務省幹部もまた、総理大臣から命令されて、やむなく黒田に命令している。警官や外交官にしても、組織の一員にすぎず、そのコマとして以外動くことは相当に難しい。このように自分だけの判断では動くことのできぬ組織の単なる一員として警察官などの公務員を描く。組織の一員として悩む警察官は、『踊る大捜査線』など他の日本の作品にも見られるものである。中国（大陸）と違い、政治体制上、警察・警察官を瑕疵のない英雄的な存在として描く必要がなく、また人が組織の一員として行動することが求められる傾向の強い日本の作品としての特徴が出ているといえよう。

なお、この作品は、とりわけ以下の点などに意外性があるように思われる。

神足は組織の意向に従い隠蔽の邪魔をした黒田を殺したかと思われたが、実はそれは二人が協力して行った演技で、黒田は死んでいなかった。

なんと、ビクトル銀行と国際テロ組織ARMを結び付けたブローカーの「ルカス」とは、実は新藤だった。

3：○ 外務省邦人テロ対策室の外交官

9：○ インターポールに出向する警察官神足は無能とは言えない。(外交官黒田は有能だが、警察官ではない。)

13：◎ 新藤逮捕時の外交官黒田

14：× 外交官黒田が主人公であろうが、警察官神足も準主人公。

15：△ 日本の警察による違法な隠蔽も犯罪。また、重要ではないが、現地警察に犯罪者側のスパイもいる。

16：○ 犯罪の組織的隠蔽

25：○ 新藤は重要な犯人ルカス。

28：○ 黒田と神足は協力しており、黒田は神足に殺されていない。

45：○ マネーロンダリング

③⑧ 踊る大捜査線 THE MOVIE3

自己保身のために責任逃れをする無能で無責任な湾岸署幹部の警官たち(主人公青島の上司)。

警視庁は所轄署を下に見ており(強圧的な警視庁上層部)、警視庁と所轄署の間の対立もある。(ただし、警視庁にも、室井のように所轄署と協力して仕事をしていこうとする警察官もいる。)

主人公青島は正義感があり有能な人物であるが、抜けたところも非常に多く、誰からも尊敬されるような完璧な人物として描かれているわけではない。彼を含め、沿岸署全体が、どこか締めりがなく、少なからずドタバタしている。

沿岸署が、拳銃を盗まれてそれを殺人に使われてしまうだけでなく、犯人(実行犯)により、嚴重な警備システムを逆手に取られ、扉が遮断、封鎖されてしまい、署内に毒ガスをまくと脅迫される。

このように、自国の警察を素晴らしいものとしては描いていなかったり、無能なものとして描いたりするようなことは、中華人民共和国成立後の中国を舞台とする中国映画ではありえない。

意外にも、自殺により新しい世界を生み出そうとする無期懲役の女囚が主犯であり、主犯だと思われていた男は、男女の愛により彼女の虜になり実行犯となった男だった。

5：× 有能な警官の引き立て役となる署の無能な幹部警官は登場する。

③⑨ 告白

森口悠子・下村優子・北原美月・渡辺修哉・下村直樹5人の告白からなる作品。

生徒に大切な娘の命を奪われた中学校教師（森口先生）の壮絶で冷酷な復讐劇。教師である彼女は、自分の娘を殺した生徒をじわじわ追い詰めていく。

学級崩壊、いじめのポイントまで設けての生徒間の陰湿ないじめ、先生の娘を殺す生徒（修哉と直樹。修哉は、人づくに母に認めてもらいたかったため。直樹は、修哉でもできなかった殺人を自分がやってみせようという過剰な自意識から。）、殺人犯の息子と心中しようとする母（下村優子）を返り討ちにして殺す生徒（下村直樹）、殺人犯に憧れひそかに毒薬を集める生徒（北原美月）、同級生を殺す生徒（ばかにされたと思い、自分と非常に親しい関係の北原美月を殺す渡辺修哉）、犯罪的行為ないし完全な犯罪と言えるレベルで冷酷に生徒に復讐する教師（森口悠子）。森口先生は娘を殺した生徒にHIV患者の血の入った牛乳を飲ませたと言い（嘘）、彼らを極度の不安に陥れる。娘の殺人に関わった生徒の一人（渡辺修哉）が、自分を捨てたと考える母親に振り向いてもらうため、学校に爆弾を仕掛けて爆発させ皆を巻き添えにして死のうとするが、森口先生は、彼の弱点ともいえる彼の愛する母親のもとでそれが爆発するように、爆弾を修哉の母親のもとに届けておく。

学級崩壊、生徒の教師に対する無視やいじめ、教師に対する信頼欠如、教師の生徒に対する陰湿な復讐、生徒同士のいじめや殺人、生徒の教師の信頼に対する裏切り、生徒の親に対する信頼の欠如、など恐るべき異常なものがこの作品に満ち溢れている。これらすべて、中国映画ではありえないストーリー設定であり、実際、今回調査した中国映画にこのような要素はない。学級崩壊や陰湿ないじめそのものが日本の学校に多いかと思うが、そもそもこうした衝撃的な内容の作品は、中国では、たとえ制作しようとしても、こうした作品の発表は認められないのではなかろうか。

37：○ 生徒修哉・直樹の犯罪は目立つことをして認められたかったから。

38：○ 教師の犯罪・犯罪的行為。なお、修哉が美月を殺したのも、ばかにされて怒ってのこと。

④⑩ SP野望編

主人公はSPの井上。上司の尾形は、実は仲間、及び彼らを支援する与党幹事長の伊達とともに、国家を変革させる革命を起こす野望を抱いている。SPのリーダーや有力政治家による国家転覆の計画であり、政府にとって危険なこのような作品は、中国では製作できない作品であろう。

④⑪ 名探偵コナン・天空の難破船（ロスト・シップ）

犯人たちは、鈴木財閥に対する恨みから飛行船ジャックを行ったと言っていたが、実は彼らは奈良の多数の仏像を奪って利益を得ることを目的としていた。リーダーは藤岡であることが後に明らかになるが、彼やその仲間の西谷・石本、その傭兵たちは、いずれも悪人として描かれている。

鈴木財閥の鈴木治郎吉の挑戦状にに応じて飛行船から宝石（レディ・スカイ）を盗もうとしていた怪盗キッドは、悪人としてではなく、基本的によい人物として描かれている。コナンが犯人たちによって飛行船から外に放り出された時、キッドもコナンを追って飛行船の外に飛び出し、ハ

ンドグライダーによってコナンの命を救う。キッドは、再び二人で飛行船に戻った際に、コナンに犯人との戦いに役立つ鈴木治郎吉の指紋を渡してくれるなど、キッドは犯人たちとの戦いにおいてコナンに協力してくれる。キッドはレディ・スカイを盗むことに成功するが、レディ・スカイそのものは返してくれる。彼にとっては、挑戦状に応じて勝負に勝つことが重要なのであり、金銭的価値のあるものを奪い利益を得ることは考えていなかったのである。

7:△? 映画①の7と同じ。

9・10:× 無能さが格別強調されて描かれているというわけではないが、コナンやキッドとは違い、大したことは何もできていない。

13:× 多人数の前で話す場面はない。

19:△ 今回の事件のメインの犯人は悪人。怪盗キッドは善良。

25:○ 傭兵や仏像を窃盗担当の犯人たちが捕まって事件が解決したと思われてからも、まだ真のボスら真の中心的人物が残っていた。

26:○ 例：バイオテロや飛行船ハイジャックは仏像を盗むための陽動作戦に過ぎなかった、殺人バクテリアは盗まれていなかった、など。

41:○ 仏像を盗むのが真の目的だった。

④2 悪人

推理・謎解きなどはない。警察の捜査や追及なども、全く重要な要素ではない。

殺人犯（清水祐一）も、善人の面もあり（性格的にも非常に誠実な面がある。）、悪人の面もある（犯罪に関わることで以外でも、生活に苦しい別居の母親にお金を無心するなどのこともしている。）。被害者（石橋佳乃）も、非常に悪質な面がある。（その男女関係に関する態度は、出会い系サイトで男を探し、すぐに性的関係を結ぶ、肉体労働の相手を嫌う、など、そもそもかなり問題がある。しかも、遠くからわざわざ会いに来た清水のいる前で老舗旅館経営者の家の別の男・増尾とちょうど出逢うと、清水とのデートの約束を反故にして、増尾の車に乗る。人里離れた場所で増尾に捨てられると、石橋佳乃を追ってきて、彼女にひどい扱いをされていたにもかかわらず親切に彼女を車に乗せてくれようとした清水を、全く無実のはずのレイプで訴えると脅す。）ただ、彼女にも、増尾にそれなりに純情な思いを抱いていた、などと言うよい面もある。他にも、犯人ではないが見方によっては犯人以上に悪質とも思われるような人物（増尾圭吾）も出てくる。被害者（石橋佳乃）の父親も、被害者遺族であるが、増尾を金属製レンチで殴りかねなかった。（もし実行していれば犯罪者になるはずだった。）様々な人物の視点で犯人や被害者その他の人間を描く。世間の人々が善悪を簡単に決めつけることに対し問題提起した作品かと思われる。

善人と悪人の境界が不明確である点、犯罪者を悪人と決めつけない点、これは、日本の作品にしばしば見られる特徴であり、中国においてはあまり多くは見られないものである。また、本作品ほどのレベルで善悪の境界が不分明な作品は、今回調査した中国の作品にはなかった。

19：◎ 様々な視点で犯人や被害者を描く。被害者はかなり悪質な面あり。犯人は殺人者だが、悪人であり善人でもある。

42：× やっていいない暴行で訴えると脅迫され、取っ組み合いになり殺してしまう。

④3 劇場版TRICK・霊能者バトルロイヤル

警察官が無能で、かつ権威も全くない。二人の刑事（矢部・秋葉）が自らを伸と偽っている詐欺師の逮捕に駆り出され村に足を運ぶが、警察手帳を提示したにもかかわらず、自分たちが逆に村人たちに詐欺師として疑われ、村人たちの前で、偶然いあわせた顔見知りの山田と上田にも誰か知らないと言われてしまい、牢に入れられてしまう。自分たちで牢から脱出しようとするが、脱出の際も、単に牢の下の地面の下部分を掘って脱出するだけで、さして知力を使ってはいないし、矢部のかつらが外れてしまったり、二人とも牢に触れて感電したり、矢部の首が引っ掛かり首が伸びてしまったりと、その姿はおかしくて笑えるほど格好悪い。警察官二人があまりにまぬけで無能である点が、作品を面白くさせている面もあるのかもしれないが、彼らは謎解き・推理ができるわけでも、格闘ができるわけでも、モラル面で優れているわけでも、見た目に威厳があるわけでもない。中国の映画で、自国の警察官をこのようにまぬけで無能な存在に描く作品はない。

この作品においてバトルロイヤルの参加者の大半は詐欺を行っており、登場する詐欺師はともも多いと言えるが、それを超えた重大な犯罪を行った者は、人を殺した鈴木・佳代子・伏見の三人、そして鈴木を刺したが命を奪うことには失敗した翔平である。鈴木・佳代子・伏見は基本的には犯罪者として描かれている。

最も重要かつ存在感のある犯人ともいえる鈴木は、基本的にはあまりよく描かれてはいないようであるが、しかし、松宮佐和子という女性との深い愛情のエピソードが描かれており、心を打つ。鈴木は、本物の霊能力者を探して、自殺した佐和子と交信しようと考え、村でのバトルに参加したのだった。また、翔平に刺されて致命傷を負っても、大した傷ではないように装い、皆から見えぬ場所に行ってから死ぬ。鈴木が一方的に悪人として描かれているわけではない。

佳代子も、双子の姉妹である美代子と同じく翔平を好きになってしまい、鈴木からアドバイスをを受け、翔平の恋人の美千代をバトルロイヤルにおいて殺すとともに、美千代と入れ替わったのだった。彼女は犯罪者として描かれてはいるが、彼女も一方向的に完全な悪人としては描かれていない。美代子が死んで翔平が悲しんでいるのを見た彼女は、いなくなればよかったのは自分の方だと言い、自殺する。彼女が美代子のことを話す時、その話す内容・話し方から、彼女の美代子への憎悪のようなものを感じることもできない。佳代子も凶悪な犯人ではなく、とても優しいところがある。

翔平は、さして凶悪な悪人としては描かれていないように思われる。佳代子に入れ知恵をして美代子を殺させた鈴木を恨み、彼を刺す。そして自殺しようとして止められ失敗する。彼は許されぬ犯罪を犯してしまったのであるが、美代子を受する翔平の思いは理解できないものとは言えないであろう。

このように犯罪者を一方的に悪人として描かない作品は日本の映画にはかなり多いが、中国映画では比較的少ない。この点においても、この作品は日本的な作品である。

5：○ ただし、引き立て役とも呼べぬほど、存在感が希薄。

7：△ 実質的な探偵役の山田や上田が謎を解いている。

9・10：× 全く無能で、権威もない。

19：△ 鈴木心の優しい面もある程度描かれている。双子の姉を殺してしまった佳代子も、不幸な境遇で育ち、性格的にも極悪非道に描かれてはいない。翔平も凶悪な人間としては描かれていない。

38：○ 鈴木を刺した翔平の場合（美代子を殺されたことに対する復讐）

40：× ただし、佳代子が美代子を殺すのは、翔平に対する愛のため。

41：○ 多くの自称霊能力者が、村を治める霊能力者となって財宝を手に入れるため、殺し合う。

2.4 日中の比較

日中の犯罪・推理小説の比較であるが、そもそも中国の推理ものも、欧米・日本の影響を強く受けている。日中の犯罪もの・推理もの映画に傾向としての違いはあっても、その違いは必ずしも絶対的なものであるとは限らないということは、日中比較の本論文の前提としてあらかじめ断っておく。また、本論文で言う中国の作品とは大陸の作品に限定する（また、基本的には中華人民共和国成立以降を舞台とする作品に限定する）ことも再度確認しておきたい。

2.4.1 日本映画と中国映画の表の比較

以下の表3の日中映画比較表は、日中比較のための表であり、表1と表2から作成したものである。

表3の表中の数字は、パーセンテージ。

◎？は◎，○？は○，△？は△，×？は×，として計算。

○（△）の類は，○として計算。（例えば，△（×）は，△として計算。）

/〔/だけしかかかれていないもの〕と ？〔？だけしかかかれていないもの〕は，ないものとして数えず。パーセンテージを計算する時，分母・分子に入れない。

〈○〉だけしか書かれていないものは，○として計算。

表3 日中映画比較表

	中国				日本			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
1 探偵が登場する。	0	5	0	95	0	26	2	72

	中国				日本			
2 探偵が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	0	100	0	26	2	71
3 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。	0	10	0	90	0	37	2	60
4 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	6	0	94	0	36	2	62
5 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。	0	3	0	97	0	12	0	89
6 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	0	100	0	10	0	88
7 プロの探偵が華麗に推理する。	0	0	8	92	0	30	0	70
8 プロの探偵が華麗に推理する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	6	94	0	31	0	69
9 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）	19	36	36	8	0	50	16	34
10 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。自国を舞台とする作に限定。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）	23	32	42	3	0	52	17	31
11 推理・謎解きが重要な要素の本格推理。	10	5	16	68	7	16	5	72
12 視聴者は最初から犯人を知っている。	0	30	8	62	0	19	0	81
13 探偵・探偵役の人物ないし警察官が、皆の前で推理した内容を披露する。（推理内容が正しい、ないしほとんど正しい場合は◎。間違った推理が披露された場合も、正しい推理内容を推理する場面が後にあれば◎。）	3	3	3	92	21	5	7	67
14 警察官が主人公であったり警察組織を描くなどの警察もの。	0	30	0	70	0	42	2	56
15 警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）	0	5	3	92	2	9	7	81
16 警察組織の問題点に触れている。	0	0	0	100	14	12	2	72
17 警察と犯罪組織の対立、ないし警察による犯罪組織摘発をメインに描いている。	0	14	0	86	0	7	7	86
18 犯人を追い詰める警官や探偵などの心の苦しみを描く。	0	3	0	97	0	0	2	98
19 犯人の善良な面をも十分描いている。	5	8	0	86	5	16	14	65
20 犯人の苦しみを十分描いている。	0	3	0	97	0	5	5	91
21 犯罪者の内面に目を向け、犯罪に至らざるを得なかった過程を十分に描いている。	0	3	6	92	2	12	12	74
22 犯人が主人公。（犯人の立場から描く。）	0	8	11	81	0	9	0	91
23 無実の人物が、他人を庇い、その身代わりとなって、自分が犯人だと偽りの自首をする。	0	0	3	97	0	2	2	95
24 社会性のある題材を扱い、犯罪が起きた社会的背景をもしっかり描いている。	0	0	0	100	9	0	5	86
25 犯人に意外性がある。	14	19	14	54	2	23	9	65
26 犯罪方法やトリックに意外性がある。	0	5	5	89	0	7	5	88
27 凶器に意外性がある。	0	0	3	97	0	2	0	98
28 意外性が、犯人が誰であるかや、犯罪方法のトリックや特殊性以外にある。	3	19	8	70	0	16	0	84
29 犯罪が残酷、ないし猟奇的。サイコ性がある。	0	8	0	92	0	5	0	95
30 不気味、ないしホラー性がある。	11	5	0	84	0	0	0	100
31 連続殺人事件。	0	19	0	81	0	26	2	72
32 密室殺人事件。	0	8	0	92	0	0	0	0

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (3)

	中国				日本			
33 科学的鑑定の場面がある。(プロファイラー以外)	0	8	8	84	0	14	2	84
34 プロファイラーが登場。	5	3	0	92	0	2	0	98
35 犯人が精神障害。	0	8	5	86	0	7	2	91
36 快楽殺人・快楽犯罪(殺人未遂を含む)。	0	0	0	100	0	5	0	95
37 ゲーム的殺人・犯罪や、劇場型の殺人・犯罪。(殺人未遂を含む)。	0	8	0	92	0	12	2	86
38 怨恨や復讐のための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	3	3	95	0	42	2	56
39 他人への妬みないし社会的疎外感による殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	3	0	97	0	2	2	95
40 男女間の愛のもつれにより相手に行う殺人や犯罪(殺人未遂を含む)。	0	5	3	92	0	2	0	98
41 金銭ないし地位目当ての殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	49	3	49	0	30	5	65
42 口封じのための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。(自分の犯罪以外について他人に知られないための口封じをも含む)。	0	24	0	76	0	26	0	74
43 自分自身の欲望のためではなく、社会をよくする、ないし悪くしないためと考へての殺人・犯罪。	0	3	3	95	0	37	0	63
44 自分自身の欲望のためではなく、自分以外の誰かのための殺人・犯罪。(復讐は含めない)。	0	8	3	89	0	5	0	95
45 誘拐や監禁。	0	35	0	65	0	19	0	81
46 麻薬の売買。	0	5	3	92	0	5	0	95
47 企業・ビジネスがらみの犯罪を描いている。	0	5	0	95	0	5	0	95
48 テロリストによるテロ。	0	0	0	100	0	23	0	77
49 犯罪動機にオリジナル性。	0	5	0	95	0	2	0	98
50 他殺はなかった。(自殺、事故、未遂、その他のみ)	0	19	0	81	0	7	0	93
51 毒物の知識など実際の犯罪に役立てられそうな情報が入っている。	0	0	14	86	0	5	0	95
52 アクションが重要な要素として存在。	0	46	8	46	0	49	2	49
53 法廷推理もの。	5	0	0	95	0	2	0	98
54 スパイもの。(警官による潜入捜査は含まず)。	0	0	0	100	0	5	0	95
55 警官による潜入捜査がある。	0	0	0	100	0	2	0	98
56 トラベルミステリ。観光地・景勝地での旅情もの。	0	0	0	100	0	0	0	100
57 時刻表もの。	0	0	0	100	0	0	0	100
58 コメディ性がある。	0	16	0	84	0	12	5	84

2.4.2 犯罪・ミステリー関連映画が重視されている程度の違い、特にそのうち推理ものが重視されている程度の違い

まず、日本と中国で、犯罪関連の映画が映画全体に占める比重であるが、中国における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング(大陸以外・外国の作品を含むランキング)上位100位までに入った中国(大陸)映画は計290本であり、うち犯罪関連映画は37本である。つまり、中国(大陸)映画については、あらかし7.8本ほどに1本が犯罪関連映画だったといえる。一方、日本における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング(外国の作品を含むランキング)上位30位までに入った映画は計160本であり、うち犯罪関連映画は

43本である。つまり、日本映画については、あらかし3.7本ほどに1本が犯罪関連映画だったとすることができる。こうしたジャンルは日本映画においての方が中国映画においてよりも重視されているジャンルだと言える。

筆者の作成した表3・日中映画比較表で見ると、「11 推理・謎解きが重要な要素の本格推理。」は、◎と○の合計のパーセンテージが、中国映画では15%, 日本映画では23%を占める。つまり、推理・謎解きが重要な要素の本格推理は、日本映画においては、映画全体の $1 \div 3.7 \times 0.23$ ほど、つまり6.2%ほどを占め、中国映画においては $1 \div 7.8 \times 0.15$ ほど、つまり映画全体の1.9%ほどを占めている計算になる。推理・謎解きが重要な要素の本格推理ものに限って言うと、日中の比率差は犯罪関連の映画の場合より更に大きくなり、中国では日本ほど推理ものは多くを占めていないということが明確に見て取れる。

日中映画比較表12「視聴者は最初から犯人を知っている。」において、◎と○の合計のパーセンテージは中国30%, 日本19%であり、×のパーセンテージは中国62%, 日本81%である。犯人を推理で明らかにしていくという映画の比率が、日本の方が中国より高いということが、ここからも見て取れる。映画全体の中に占める犯罪関連の映画の比率自体が、上で述べたように日本の方が中国よりも相当に高いので（今回のデータについて言うと、日本が3.7本ほどに1本、中国〔大陸〕が7.8本ほどに1本。）、映画全体に占める、視聴者が最初は犯人を知っていない犯罪映画の比率は、日中映画比較表12のパーセンテージから見る以上に大きな差がある（日本が高い。）と考えられる。

日中映画比較表13「探偵・探偵役の人物ないし警察官が、皆の前で推理した内容を披露する。（推理内容が正しい、ないしほとんど正しい場合は◎。間違った推理が披露された場合も、正しい推理内容を推理する場面が後にあれば○。）」において、中国映画では◎3% ○3% ×92であるのに対し、日本映画では◎21% ○5% ×67%である。該当する作品の比率は、日本が中国より明らかに高いと言える。これは犯罪関連の映画の中における割合と言えるが、映画全体の中に占める犯罪関連の映画の比率自体、上で述べたように日本の方が中国よりも相当に高いので（今回のデータについて言うと、日本が3.7本ほどに1本、中国〔大陸〕が7.8本ほどに1本。）、映画全体の中に占める探偵・探偵役の人物ないし警察官が皆の前で推理した内容を披露する映画の割合は、日本がより高くなると考えられる。このことも、推理・謎解きが重要な要素の本格推理ものが、中国は日本ほど多くを占めているわけではないということを反映したものといえよう。

なお、明確な根拠に基づくものではなく主観的な感覚で言うところであるが、映画ではなくテレビドラマにおいても、日本の方が中国よりミステリの比率が高いと思われる。なお、レベルの高さの判断にはどうしても主観も入ってしまい、客観的な比較は難しいが、中国においてミステリは、全体としてみるとまだ高いレベルの作品がとても多いという状況にはなっていないように思われる。（ただし中国のミステリは、近年大きく発展しつつあり、今後の変化・発展も大きいものと思われる。本論文は基本的には2010年～2018年の日中の映画を比較するものである。）

本論文「犯罪・ミステリー映画の日中比較」の(1)、『名古屋学院大学論集・言語・文化篇』Vol.31 No.2)のp45～p46において、以下のような内容を書いた。

2010年の映画「密室之不可告人」は、中国で制作された最初の名探偵推理映画のシリーズ。もっとも、中国(大陸)の映画に探偵ものは極めて少なく、この作品にしても、国情を反映し、探偵役は、職業としてはプロの探偵ではなく、推理小説作家である。この作品は、本格推理としての性格が非常に強く、推理・謎解きを楽しめる。中国に本格推理の映画はとても少なく、今回調査した中国映画中、このシリーズの作品「密室之不可告人」(2010)「密室之不可靠岸」(2011)は、本格推理としての性格が典型的に表れた作品といえる。「密室之不可告人」の公開された当時において、中国には長らくこのような本格推理映画が欠けており、この作品は中国ミステリー推理映画の先駆けとしての位置を占める作品だったと言える。(この作品はまた、それ以前の20年来初の「密室推理」映画でもあった。)

「『密室之不可告人』首轮角色造型照曝光」(新浪娱乐, 2010-09-02)は、以下のように記している。

「国内で20年来最初の密室推理映画として、『密室之不可告人』が打ち出した『20年来の国内ミステリー推理映画欠如の状況を埋める』という目標スローガンは、すぐさま人々のこの映画に対する期待を生じさせた。監督張番番は、インタビューを受けた際にも、自分は実のところ推理の熱烈なマニアであり、この映画を撮影することは、単なる趣味のみによるものではなく、自分の若い頃の『ナイル殺人事件』『オリエンタル急行殺人事件』などのような推理映画への熱中を伝えるものでもある、と言っている。近年来、推理を題材としたドラマや映画は、すでに国内で幅広い視聴者を有している。例えば、『風声』など多くの映画も、〈ミステリー推理〉の要素を多かれ少なかれその中に取り込んでいる。しかしながら、依然として、日本の推理映画のみが目立つという苦しい現状を変えることはできていない。『密室之不可告人』のようにミステリー推理の看板をもって打って出、正面から〈日本映画風〉に戦いを挑む映画は、これまでの20年間の国産映画史を俯瞰してみても、初の作品である。」

つまり、2010年時点において、中国では本格推理のミステリー映画が不毛な状況にあり、日本の推理映画のみが目立っていた。そこに「密室之不可告人」そして更に「密室之不可靠岸」が現れ、国産本格推理映画の先駆けとなったのである。

なお、中国と日本の推理・ミステリー系の小説との関係について軽く触れておきたい。中国では1980年代にはすでに西村寿行・森村誠一・松本清張らの日本の推理小説が広く読まれており¹⁾、日本の推理・ミステリー系の小説は中国で長い期間に渡って読まれてきたともいえるが、この論文の扱う期間である2010年代を通して、東野圭吾の小説はとてもよくよく読まれ、とりわけ2010年度の後期にもなると、中国で図書印税収入を最も稼ぐ外国人作家とすらなっている。筆者はときおり上海最大の書店である上海書城(福州路にある旗艦店)でベストセラーランキングを見てきたが、2010年代において、東野圭吾の小説の何冊もが外国文学のトップ10に入ることが普通

であったし、それ以外の日本のミステリ作家の小説が外国文学トップ10に入ることも珍しくなかった。日本の推理・ミステリ系の小説は、中国で長く読まれてきたし、東野圭吾の人気の高まる2010年代になると、とりわけよく読まれるようになったといえることができる。

中国の本格推理映画としては、本論文の(1)〔名古屋学院大学論集(言語・文化篇) Vol.31 No.2掲載〕において、「唐人街探索」(2015)「唐人街探索2」(2018)をも取り上げた。

「唐人街探索」においては以下のようなことを書いた。

この作品は、謎解き・推理を非常に重要な要素とする本格推理作品である。以下のような点において、推理作品として非常によく工夫されている。

密室殺人である。予想外の犯罪方法である。そもそも真犯人はいたが、金は盗まれてすらいなかった。二つの事件が関連する一つの事件と思われていたが、実は別々の事件だった。事件が解決してから、最後に非常に意外な人物が真の黒幕的存在の悪人であったことが明らかになる。等

本格推理や密室殺人については、明らかに日本を含めた外国の推理小説の影響がある。84分目：「歌野晶午の《求道者密室》、凶手为了杀人 躲在天井里一个月。……福尔摩斯说过、『排除所有不可能，剩下那个多不可思议，都是事实真相。』(「歌野晶午の〈求道者の密室〉では、殺人犯は殺人のために天井に一カ月隠れていた。……ホームズは言った。『あらゆる不可能を排除し残った不思議なことがすべて事実真相である。』)」、117分目：「杰克・福翠儿《遗失的雷》中，凶手就是藏在皮箱里潜入研究所的。青崎写的体育馆杀人，凶手也是躲在一辆手推车里离开现场的。这种桥段，在我们侦探推理解里并不新鲜。(ジャック・フットレル〔1875～1912 アメリカ〕の『The Lost Radium』において、殺人犯はトランクに隠れて研究所に潜入した。青崎有吾が書いた『体育館の殺人』においても、殺人犯は手押し車に隠れて現場を離れた。このような手法は、私たち探偵推理の世界では、決して珍しいものではない。)」

2018年公開の「唐人街探索2」においては、以下のようなことを書いた。

第1作同様、謎解き・推理を非常に重要な要素とする本格推理作品である。

本格推理は、外国の推理小説の影響が大きいと思われる。87分目：「福尔摩斯说过，世上没有真正完美的犯罪。其实真相也一直就在我们眼前，只不过还没有被发现。所谓推理，不过就是把重要的细节放大。(ホームズは言った。「世の中に真に完全な犯罪など存在しない。実のところ、真相はずっと我々の眼前にあり、ただただ発見させていないにすぎない。いわゆる推理とは、重要な細部を拡大することにすぎない。))」

秦風はひらめいて推理する際、地面その他の場所に、取り付かれたようにすらすらと数式を書いていく場面があるが、これは日本の東野圭吾原作・福山雅治主演のガリレオシリーズのまねであろう。

「密室之不可～」シリーズや「唐人街探索」シリーズからは、中国の本格推理映画が日本を含

めた外国の作品の影響を強く受けていることが明らかである。

中国では2010年代、推理、とりわけ本格推理の映画は、それまでの不毛の状況から、海外の小説や映像作品などの影響を受けつつ、その優れた部分を吸収することにもより、発展しつつあると見てよいであろう。

次に、日中の文学者の収入のランキングの比較から、日本と中国における推理・ミステリー系作品の重視度を比較してみたい。

日本では政府が1947年（1946年度所得分）から2005年まで（2004年度所得分まで）毎年、高額納税者公示制度に基づき、高額納税者番付を発表しており、その番付に「作家部門」があった。最終年度の2004年度分（2005年発表）についてみると、作家部門の上位10位までに

1位 西村京太郎

6位 内田康夫

7位 宮部みゆき

8位 赤川次郎

と、1位を含む4人のミステリー作家が入っていた。

また、日経エンタテインメントの「エンタメ！ エンタウォッチング」(2011年10月17日)の「売れる作家ランキング」(流通している全著作を対象に直近1年半に売れた冊数が多い作家をランキングしたもの)²⁾によると、

1位 東野圭吾

7位 伊坂幸太郎

8位 宮部みゆき

9位 湊かなえ

と、売れる作家ランキングTOP10に、4人のミステリー作家が入り、TOP100に28人のミステリー作家が入っている。

更に、「おしゃべりビューフェ」(2020年7月11日)というサイトに、小説部門の年収ランキングTOP3が書かれていた。(https://lunch-topic.com/小説家-年収-ランキング-日本/) データの出所は明示されていなかったが、それによると、

1位 東野圭吾

3位 宮部みゆき

と、1位及び3位がミステリー作家であった。

上記ランキングから、日本において、いかにミステリーが人気のあるジャンルであるかがうかがわれる。

一方、中国における中国人作家の印税収入ランキングを見てみる。中国では2006年から毎年、「中国作家富豪榜（中国作家富豪ランキング）」という中国人作家の年間図書印税収入ランキングが発表されている。(呉懷堯により創設。文学以外のジャンルも含まれるが、実質的に文学が大部分を占めている。また、大陸以外の作家をも含むが、ほぼ大陸の作家が占めている。)

2010年第5回（第5届）から2019年第13回（第13届）までの毎回の上位20位までを見ても、ミステリ作家は一人も入っていない³⁾。

中国では、2010年台になるとネット作家が大きく台頭し、2014年（第9回）の頃には、(図書印税収入においてネット作家・それ以外の作家それぞれの同じ程度の順位の作家同士を比較した場合、) ネット作家の図書印税収入がそれ以外の作家の図書印税収入を非常に明確に上回るようになる。そうした中、「作家富豪榜（作家富豪ランキング）」は、2012年から、ネット作家のランキングである「中国网络作家富豪榜（中国ネット作家富豪ランキング）」を追加して設けている。このネット作家富豪ランキングにおいても、公式ホームページ（作家榜官方网站<http://zuojiabang.cn/Rangking>）に掲載されている各年度ランキングに入っている全員である2012年の第7回（第7届。第7回が初回なので、実際は初回に当たる。）の上位19位まで・2013年（第8回）の上位19位まで、2014年（第9回）の上位16位まで・2016年（第10回）の上位15位まで・2017年（第11回）の上位19位まで・2018年（第12回）の上位17位までにも、ミステリ作家は一人も入っていない。（なお、2019年の第13回〔第13届〕においては、「中国网络作家富豪榜」は設けられていない。）

作家の収入ランキングから見ても、日本が中国よりミステリの人気がある状況が、明確に見て取れる。

なお、2010年の第5回（第5届）から「中国作家富豪榜」と共に「在中国最赚钱的外国作家富豪榜」（中国において最も稼いだ外国作家ランキング）が発表されている。これは外国人作家の中国における1年間の図書印税収入のランキングである。（文学以外のジャンルも含まれるが、実質的に文学が大部分を占めている。）そのランキングを2010年の第5回（第5届）から2019年の第13回（第13届）まで、各年度上位10位まで見てみる。すると、ミステリ作家と思われる作家は以下の通りである。（先にあげた公式ホームページ作家榜官方网站による。）

2010年第5回（第5届）	4位：Dan Brown（ダン・ブラウン）	10位：東野圭吾
2011年第6回（第6届）	5位：東野圭吾	10位：Dan Brown（ダン・ブラウン）
2012年第7回（第7届）	6位：東野圭吾	9位：Dan Brown（ダン・ブラウン）
2013年第8回（第8届）	8位：東野圭吾	
2014年第9回（第9届）	2位：東野圭吾	
2016年第10回（第10届）	3位：Dan Brown（ダン・ブラウン）	10位：東野圭吾
2017年第11回（第11届）	1位：東野圭吾	
2018年第12回（第12届）	1位：東野圭吾	
2019年第13回（第13届）	1位：東野圭吾	7位：J.J.Abrams（J.J.エイブラムス）/ Doug Dorst（ダグ・ドースト）（：中国でよく読まれた「S.」はミステリ要素あり。）

日本の東野圭吾が非常によく読まれており、ダン・ブラウンも人気がある。中国においてもミステリの需要が一定程度あることが見て取れ、読者を満足させる作品でさえあれば、中国でもミステリがよく読まれることもうかがえるとも言えるが、しかし、このランキングでも、ベストテ

ンに数人はミステリー作家が入る日本におけるミステリー人気には全く及ばない。

やはり、中国では日本ほどミステリーに人気があるわけではないということを見て取ることができる。

次に、日中の文学賞の比較から、日本と中国における推理・ミステリーの重視度を比較してみたい。

例えば、2018年時点において賞金金額の多い日本の小説についての文学賞は、賞金金額順に、第1位：「このミステリーがすごい！」大賞1200万円、第2位：江戸川乱歩賞1000万円、第3位：日本ミステリー文学大賞新人賞500万円、松本清張賞500万円、日本ホラー小説大賞500万円、第6位：横溝正史ミステリー大賞400万円と、そのほとんどをミステリーが占めている。日本においてはミステリーの分野は大きな需要があり、非常に重視されているジャンルだということが見て取れる。こうした状況は、日本でミステリーの需要が多く重視されていることの反映であり、日本映画において推理・ミステリー系の映画が大きな比重を占めることと大きく関わっているといえよう。

中国において権威ある文学賞は茅盾文学獎・魯迅文学獎・老舍文学獎・曹禺戯劇文学獎の中国四大文学賞であろうが、茅盾文学賞が賞金50万元（800万円ほど）で賞金金額が最高と思われる。（魯迅文学獎は、近年5万元、つまり80万円ほどである。）中国のネットサイトの網易教育（2021年3月29日・<https://3g.163.com/edu/article/G690DPN500297VGM.html>）に、「中国の10大著名文学賞、あなたはどれを知っているか（中国10大著名文学奖项，你知道哪些？）」という記事があった。そこに挙げられている賞は、上記四賞の他、莊重文文学獎（香港で設けられた青年作家向けの賞）・徐遲報告文学賞・施耐庵文学獎（漢語長編叙事作品の賞）・冰心文学獎（児童文学賞）・馮牧文学獎（文学新人賞・青年批評家賞・軍旅文学賞）・姚雪垠長編歷史小説獎の10の賞であり、これらの中にミステリー関連の賞はない。

なお、中国における文学賞（大陸、ないし大陸中心のものに限定し、したがって、台湾の台湾推理作家協会徵文獎、島田莊司推理小説獎〈第4回は、噶瑪蘭・島田莊司推理小説獎、第5回以降は、金車島田莊司推理小説獎。〉などの賞は含まない。）において、本論文の扱う2010～2018年、ないしそれ以降2020年までの期間の推理・ミステリー専門のものとしては、以下のような賞がある。

全国偵探推理小説天賽（1996～98年が第1届〈第1回〉。毎年1回あるわけではなく、第6届〈第6回〉の募集期間は2015年。第7届以降の実施は、確認できない。全国公安文聯・全国公安作協と北京偵探文芸協会などが合同で開催、公安が関わっている点が中国らしい。この点、下記の東方偵探推理小説大獎と共通する。最佳長編小説獎、最佳中編小説獎、最佳短編小説獎、最佳微型小説獎、等各1名。他に、最佳人物獎、最佳情節〈ストーリー〉獎、最佳構思〈構想〉獎、最佳推理獎、最佳懸疑〈サスペンス〉獎、最佳語言〈言語〉獎、等の賞。更に、優秀獎8名、提名商10名、最佳組織獎若干名。〕⁴⁾

東方偵探推理小説大獎（1万字～3万字。2005年が第1届〈第一回〉。2010～2011年の第五届を

最後とし、それ以後の実施は確認できない。「第五屆東方偵探推理小説大獎賽啓事（第五回東方偵探推理小説大獎コンテストについてのお知らせ）」には、「よりいっそう公安戦線や人民警察の風采を示し、公安文化事業の発展を推進し、中国の探偵文学の創作レベルを向上させ繁栄させるために、広範な読者の求めに応じ、ここに第五回東方偵探推理小説大獎コンテストを実施することを決定した。」とあり、公安や人民警察の活躍を表現するという目的のもとで実施されているという点は中国的である。「第五屆東方偵探推理小説大獎賽啓事」には、採用された作品は、それぞれ『東方剣』『人民警察』『東方消防』『文学報』に掲載されるとも書かれており、『人民警察』に掲載されるというところからも、公安や人民警察の活躍を表現するという目的のもとで実施されているという点が明確にうかがわれる。一等獎1名、6千元つまり10万円ほど。2等獎2名、3千元つまり5万円ほど。3等獎5名、2千元つまり3万円ほど、佳作獎若干名、1万元つまり1万数千元。⁵⁾

華文推理大獎賽（3万5千字以下。2010年に始まる。全世界の華人を対象とする。毎年募集があるわけではなく、第3屆〈第3回〉の募集期間は2015年であり、第4屆以降の実施については確認できない。第3屆の募集要項を見ると、一等獎1名、二等獎2名、三等獎3名、最佳新人獎1名。賞金の最も多い（2等の倍額。）1等でも1万元、つまり十数万円にすぎない。ただし、作品は雑誌に掲載され、原稿料は別に出る⁶⁾。

中国原創推理星火獎（2万～8万字。2020年に始まる。第1回の募集時期は2020年。賞金の最も多い中国原創推理星火獎は1名、賞金3000元、つまり5万円ほど。他。「“人性的証明”獎」：1名、1000元、「奇想天動”獎」：1名、1000元、「Best Remix”獎」：1名、1000元、「無限可能”獎」：1名、1000元、など。1つの作品がいくつかの賞を獲ることも可能であり、また、受賞該当なし、ということもありうる。⁷⁾

華斯比推理小説獎（5万字以内。個人の設けた賞。2018年に始まる。入賞作品は3編以下とし、賞金5千元〈8万円ほど〉を受賞人数で分ける。「××年中国懸疑小説精選」に載せ、その原稿料も出る。⁸⁾

むろん、今は昔と違い無名の新人もネットの文学サイトに作品を発表できる時代とはなっているが、中国（大陸）の推理・ミステリ専門の賞は、知名度・権威において目立つものはないと言ってよいし、安定的・継続的に実施することすらできていないように思われる。賞金から見ても大した賞はない。中国では、この点から見ても、推理やミステリは、十分重んじられたジャンルとは言いがたいように思われる。

なお、近年の中国ではそもそも、ネット文学サイトに作品を発表し、またそうしたサイトで作品を読むということが重要になっているが、そうしたネット中国の文学サイト最大の「起点文学

網」(<http://www.qidian.com>)のトップページには「作品分類」という欄があり、作品を玄幻・奇幻(玄幻・奇幻とも広い意味ではファンタジー)・武侠・仙侠・都市・現実・軍事・歴史・遊戯(ゲーム)・体育(スポーツ)・科幻(SF)・懸疑(サスペンス)・女生網(女性作家)・輕小説に分類している。2021年9月28日の時点で、各ジャンルの作品数は、玄幻721722・奇幻159241・武侠45378・仙侠236460・都市374244・現実43492・軍事20623・歴史77225・遊戯108311・体育9109・科幻157333・懸疑66996となっている。ファンタジー系が非常に多くを占め、サスペンスの占める割合はかなり低い。先に挙げた、ネット作家の図書印税収入ランキングにおいても触れたことであるが、やはりネット文学においてもミステリは重要な位置を占めていないということが見て取れる。

ここまで、中国においては、日本におけるほどにはミステリが重視されず、ミステリは人気のあるジャンルとは言えないということを述べてきたが、それは基本的にその通りであるとしても、中国においてミステリが近年大きく発展してきていることも見逃すことはできず、そのことにも少し触れておきたい。

この論文でテーマとする映画ではないが、中国においてここ数年、ミステリ・推理系のドラマが大きく発展してきていることも注目される。この論文の扱う2010年から2018年の期間においては、例えば、2014年の「暗黒者(暗黒者1)」, 2016年の「余罪」「法医秦明(ダイイング・アンサー)」, 2017年の「白夜追凶(Day and Night)」 「无证之罪(Burning Ice 〈バーニング・アイス〉)」 2018年の「悍城」などが、そしてこの論文の扱う時期の後になると、2019年の「破冰行动(ドラッグ・ウォーズ)」, 2020年の「隐秘的角落(隐秘之罪)(バッド・キッズ)」 「摩天大楼(摩天楼のモンタージュ)」 「沉默的真相(ロング・ナイト)」など、優れたドラマが次々に現れてきている。2019年の「紳探(紳士探偵L)」, 2020年の「非常目击(雨に眠る罪—非常目撃—)」 「在劫难逃(逃れられない運命)」なども日本語訳のあるよくできた作品である。(これらの作品を挙げたのが、妥当な選択なのかは、よく分からない。動画配信サイトやSNSサイト豆瓣などにおける評価の点数も、それらの間で評価に違いがあったり、筆者の主観とずれているものも多く、どの作品を例示するのが妥当かの判断はなかなか難しい。よくできた作品と筆者が思う作品は、これら以外にも少なからず存在し、上記は、あくまでもとりあえず一部の作品を例示したものにすぎない。)これらはすべて、テレビドラマではなく、オンライン動画配信サービスによるネットドラマである。中国においては、ネットドラマは2010年以前から存在するが、それが本当の意味で盛んになってくるのは、2010年代半ばあたりからである。ミステリや推理系の映像作品も、ネットドラマという発表し収益を得る新しい場を獲得したことにより、この頃から、急速に発展してきているように思われる。ただし、ミステリだけではなく中国ドラマ全般が発展してきていると言うべきかもしれない。

なお、中国は日本よりはるかに人口が多く、人気が比較的低いジャンルであっても収益の元となる視聴者は多く、また原作者をも含め作品制作に関われる潜在的な能力をもつ人材も、人口の多い分多くいることになる。日本におけるより人気が低ければ、即作品のレベルが低い、という

ことにはならないことには留意すべきである。異なる2つの国の間でこのジャンルの映像作品のレベルを客観的に比較するのは簡単ではないが、中国の犯罪・ミステリ系のドラマなどにも、前の段落に挙げた以外の作品を含め、なかなか良くできた作品が少なくないように思われる。(ただし、推理中心の作品については、あくまでも筆者の個人的主観によるものにすぎないが、日本の作品に優れたものが比較的多いように思われる。)

2.4.3 警官・警察を理想的で素晴らしいものとして描くか

2.4.3.1 警官が推理において無能か

今回調査した作品について言うと、日中映画比較表10「警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。自国を舞台とする作に限定。(警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。)」において、◎は中国が23%、日本が0%であり、×は中国が3% 日本が31%である。自国を舞台とする作品において、警察の優秀さが際立たせられている作品は中国の作品に目立ち、警察が無能な作品は日本の作品に圧倒的に集中している。

なお、「唐人街探索」(2015)・「唐人街探索2」(2018)においては、警察や警官がひどく無能で間抜けなものとして描かれている。そうした点において、これらの作品は中国映画には極めて珍しい作品であるといえる。ただし、この作品は海外が舞台であり、警察はそれぞれタイ・米国の警察、警官もそれぞれタイ・米国の警官である。外国の警察・警官を無能に描くこうした作品があるにもかかわらず、中国の警察・警官を無能に描く作品がないということは、中国において中国の警察・警官を無能なものとして描くことがタブーとされており、そのような作品を制作したくてもそれは不可能であるということを表しているといえる。(なお、今回の調査対象である映画でもなく、また2010~2018年の作品でもないが、2021年公開のネットドラマ「刑警之海外行动」のように、中国の警官が海外に赴いて現地で活躍する作品もある。中国の警官は高い能力と勇気をもつ優秀な警官たちであり、理想的な存在として描かれている。)

これはもちろん、中国共産党による国家統治の手足ともなる警察に対し国民が批判的にならぬよう、国家広播電影電視総局が審査において、悪意をもって警察のイメージを損ねる作品を認めていないということが背景にあらう。広電総局が2006年に公布した映画基準についての規定(「电影剧本〈梗概〉备案, 电影片管理规定」(2006年6月22日より施行)には、以下の条項がある。「十四、映画に以下の下に列举した内容があれば、削除して修正すべきである。:(电影片有下列情形, 应删剪修改:) …… (二) 恶意をもって人民軍隊・武装警察・公安及び司法のイメージを損ねるもの:(恶意贬损人民军队, 武装警察, 公安和司法形象的;)」

映画「大人物」(2018)において、警官や警察は、正義感があり、勇気があり、格闘能力もある頼もしい存在として描かれているが、その最後の文字のみの画面には、「自2018年1月到7月底全国公共机关打掉涉黑组织514个, 恶势力犯罪集团2993个, 破获刑事犯罪案件3.4万起, 全国刑事治安警情同比下降6.1%。」とあり、警察など全国の公共機関がいかに犯罪集団・組織の取り締まりに成功し、刑事案件を解決し、治安状況が改善したかを、映画の最後でわざわざ示している。これは、作品のストーリー上、格別必要ないにもかかわらず、政府の統治がいかに優れた

ものであるかを示そうとしたものであり、(日本をも含め)一定程度以上のレベルで(中国的な意味ではなく真の意味で)民主的である国では見られないものである。中国の作品において警官や警察が素晴らしいものとして描かれる傾向が強く見られるのには、国家機関・国家統治機関としての無謬性やありがたさを傷つけるような内容は認めないという中国政府の意向も、当然その背後にあるものと考えられよう。

また、「心理之罪」(2017)や「心理之罪 城市之光」(2017)において、主人公の警官方木は、非常に優れた推理能力やプロファイリング能力を有し、それ以外の警官も非常に優秀である。

2.4.3.2 警察官が正義感その他、推理能力以外の面において優れているか

日本の映画では、往々にして、警官が無能だったり、警察組織において上司が保身を図ろうとしたり、隠蔽しようとしたり、警察組織間に対立があったり、警察や警官の問題点・マイナス面を描く作も少なくない。(一般の会社員同様の組織の一員としての、いわばサラリーマンとして警官の側面を描くものも少なくない。)それについては、次回、2.4.4「警察組織の問題に触れているか」においても例を挙げる予定である。

中国映画は、それとは状況が大きく異なっている。

2.4.3.1において述べたように、映画「大”人物」(2018)において、警官や警察は、正義感があり、勇気があり、格闘能力もある頼もしい存在として描かれており、その最後の文字のみ画面において、警察など全国の公共機関がいかに犯罪集団・組織の取り締まりに成功し、刑事案件を解決し、治安状況が改善したかを、映画の最後でわざわざ示している。

また、同様に2.4.3.1において述べたように、映画「心理之罪 城市之光」(2017)においても、主人公の警官方木は、非常に優れた推理能力やプロファイリング能力を有するが、格闘もけっこう強い。最後近くで、同僚警官に発砲して殺したように見せ、世の中の人々皆に向かって自ら真犯人を装い演じ、「城市之光」と称する犯人であることにプライドを持つ真犯人(江亜)を挑発し怒らせて、おびき出す。そして真犯人との死を覚悟した格闘の中で、真犯人の証拠となるその肉体に噛みつき、それを自分の消化器官の中に残し、自らの命を犠牲にして、警察による犯人逮捕を導く。主人公の死後、その思いを述べた録音が、多くの警官の前で、またネットを通して多くの市民の前で流される。プロファイリング能力・推理能力に優れ、理性的で、警官としての正義感にも満ちた素晴らしい演説となっている。この作品は、主人公の警官(方木)の英雄的行為を描いている。公安の人々は、主人公以外にも有能であり、モラルなどの面でも悪く描かれている警官はいない。DVDでは見られなかったが、オンライン視聴サイトで視聴すると、最後の場面に「仅以此片献给在城市中守望光明的战士」との一文が大きく現れ、この映画は都市において光明の見張りをする戦士に献じられるとされている。さらにその後、音楽が流れる中、画面に出演者・制作関係者の名前が表示される中、警官・消防署員・軍人などの人々が、様々な事件や災害などにおいて人々のために活躍する映像も、それについての文字説明と共に、次々に流される。光明を見張る戦士である警官・消防署員・軍人らを称えるものとなっており、その点非常に中国

的である。

また、「解救吾先生」においても、警察・警察官の登場する時間は作品中かなり長い、警察官の問題に触れる場面は全くない。警官は優秀で、一度として迷ったり間違ったり失敗することもなく、事件を解決してゆく。事件解決後、警官の邢峰・曹剛二人が車（警察の車と思われる。）に乗っている場面がある。彼らは事件解決後も忙しく仕事を続けており、邢峰は息子から携帯に掛けてきた電話にも、お父さんはほんとにとっても忙しいんだと言う。そして、車のダッシュボードに載せられた警察官の制帽がアップで映し出される。そしてそのすぐ後、車のラジオの放送が、事件が成功裏に解決されたことを伝える。制帽の映像は、警官たちの英雄的行為・精神・誇りを強調するためのものであろう。ここまで警察官を優秀で英雄的な人物として描く映画は、日本の作品にはないと思われる。少なくとも今回調査した日本の作品にはなかった。

児童向け動物アニメ「黒猫警長（黒猫警長）」シリーズにおいて、黒猫警長ら警察・警官は、治安を守るありがたい存在である。黒猫警長は、市民の安全のため悪人（動物であるが。）を懲らしめ、逮捕するが、戦うと強く、正義感に満ちた理想的な存在、正義の味方である。理想化された警官・警察を描く点、いかにも中国の作品らしい。子供向け作品のため教育的効果を考えてか、それがとりわけ徹底している。社会として、あるいは中国政府・中国共産党として子供たちをどう育てようと思っているのかが明確に見て取れる啓蒙的・教育的色彩の強いアニメである。そのテーマソングには以下のような歌詞がある。「你给我们带来生活安宁。……黒猫警长，森林公民向你致敬，向你致敬，向你致敬。（あなたは私たちに生活の安寧をもたらしてくれた。……黒猫警長，森の公民があなたに敬意を表する，敬意を表する，敬意を表する。」統治機関をこのように理想化・英雄化するテーマソングは、日本だけでなく、民主主義国家においては、ありえないとまでは言えないとしても、まずなさそうなテーマソングだと言える。

日中映画比較表の15「警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）」において、中国は◎0% ○5% ×92%，日本は◎2% ○9% ×81%であった。今回調査した映画において、日本の方が警察官が犯人である作品の比率が高い。これも、中国映画において、警察官が正義感に溢れた人物を描こうとする傾向を反映するものと言える。

なお、映画ではなくドラマである、対象時期の作品でない、その他の理由により今回の調査対象にならなかった作品でも、すばらしい警官を描く映像作品は少なくない。

以下の作品などはその一部の例である。以下の作品の例からも、こうした中国の作品の傾向は、本論文が主として扱う2018年よりの後、2021年末の現在まで続いていることがうかがえる。

2013年のドラマ「迷案追凶」:

趙輝を始めとする警官たちが、夜に日を継いで、努力と苦労の末に事件を解決する話。以下が、警官を主人公とするこのドラマの、ドラマの後に流れる歌の歌詞の冒頭部分。「黎明前の空を守り，正義の道を歩み，絶えず罪惡の足取りを阻み，……（守卫在黎明前的天空，踏上正义之路，时刻拦截罪恶的脚步，……）」勤勉に世の中を罪惡から守る正義の存在としての警官が描かれて

いる作品であることが明瞭に見て取れる歌詞である。なお、監督は張玉中であり、中国人民解放軍八一電影制片廠という軍の宣伝を担う映画制作所所属の監督であり、このようなところも中国らしい。警官は軍人ではないが、警官が正義の道を歩み悪を阻む作品を制作するのも、当然というべきかもしれない。

2017年のネット映画「午夜惊情」:

警察隊隊長・劉峰が主人公。彼は強い社会的責任感と勇気をもつすばらしい警官であり、犯人に不意打ちをくらわされて襲われて戦い、犯人逮捕に繋げるが、自らは殉職する。最後、厳粛な音楽が流れる中、彼の死後、整然と白いベッドの上の白い枕の上に置かれた彼の警帽が映し出され、映画は終わる。警察官・劉峰を無言のうちに称える場面で映画が終わっているということが出来る。

2018年のネット映画「绝密追击（絶密追撃）」:

曹仁凡・馮雲を始めとする警官たちの麻薬組織に対する捜査・戦いが描かれている。馮雲は捜査のため、警官としての身分を隠し、麻薬組織に潜入している。彼ら警官たちは強い使命感をもち、勇気があり、戦っても強く、その命懸けの働きにより、麻薬組織を倒すことに成功するが、馮雲は殉職してしまう。曹仁凡は、馮雲の遺体の安置されている部屋で、彼に警官の制服を着せ、制帽をかぶらせ、彼に敬礼する。そこで場面が変わり、馮雲の墓の前で、その墓に向かって、十人ほどの警官が横一列に整列し、みな脱帽して何度もお辞儀し、敬礼する。この作品では、警官・彭寧も、曹仁凡らと麻薬組織の人物を追う中で、曹仁凡を手榴弾から守るためにみずから犠牲となり殉職する。曹局長は、麻薬組織撲滅の戦いは、多くの警官の奮闘と命の犠牲の上に成り立っていると述べている。警官たちは押し並べて皆、使命・任務に対し非常に真摯である。この映画において、警官はすばらしく模範的な存在として描かれている。

2020年のネット映画「特警使命之全城危机」:

特警（SWAT）の警官たちは、勇気ある警官たちであり、警官としての職責・任務のためには、自らが犠牲となることをも厭わないすばらしい存在である。映画の最後あたりで、殉職した警官の制帽や（警官の履く）ブーツ、生前の写真などが映し出さる。次に、場面が変わり、大きな石碑が映し出され、そこには「国家と人民の安全を守るために光栄にも犠牲となった公安警官を心を込めてしのぶ（深切怀念为保卫国家和人民安全而光荣牺牲的公安民警）」との文が彫られており、今回の事件で殉職した警官の氏名が彫られている。その前に整列する数多くの警官たちが、皆そこに向かって敬礼する。その後、再び場面が変わり、やはり多数の警官たちが並び、声を合わせて次のように叫ぶ。「私は誓う。『私は志願して中華人民共和国の人民警察の警官となった。崇高な人民公安の事業に献身し、断固として党に対する忠誠をやり遂げ、人民に服務し、公正に法を執行し、厳正に規律を守り、志を変えることなく中国の特色ある社会主義事業の建設者・守護者となり、社会の大局の安定を守り、社会の公平正義を促進させ、人民が安らかに暮らし楽し

く働くことを保障するために努力奮闘する。』(我发誓:「我志愿成为中国人民共和
国人民警察, 献身于崇高的人民公安事业, 坚决做到对党的忠诚, 服务人民, 执法公正, 纪律严明, 矢志不渝的
做中国特色社会主义事业的建设者, 捍卫者, 为维护社会大局稳定, 促进社会公平正义, 保障人民
安居乐业而努力奋斗。)」最後に、音楽及び字幕だけとなり、以下の字幕が現れる。「公安部の統
計データは示している。2013-2017の5年間に於いて、全国で公務により犠牲となった公安警察
官は計2003人、公務により負傷し、あるいは障害を負った公安警察官は2.5万人、公務により犠
牲となった警察官の平均年齢は43.5歳であった。そして2018年、また301名の公安警察官、141
名の警察業務協力者が公務で犠牲となり、1.2万名余りの公安警察官と警察業務協力者が勇敢に
も負傷した。2017年5月、習近平総書記は全国公安系統英雄模範立功集團表彰大会において会見
した際、指摘した。『平和な時代においては、公安隊は犠牲の最も多く貢献の最も大きい隊であり、
皆は祝日・休日もなく、ほとんど常に血を流し、日々犠牲を生じている。』(公安部統計数据显示,
2013-2017的5年里, 全国因公牺牲的公安民警共2003人, 因公负伤或致残2.5万人, 因公牺牲民警
平均年龄43.5岁。而2018年, 又有301名公安民警, 141名警务辅助人员因公牺牲, 1.2万余名公
安民警和警务辅助人员英勇负伤。2017年5月, 习近平总书记曾在会见全国公安系统英雄模範立功
集体表彰大会时指出: “和平年代, 公安队伍是一支牺牲最多, 奉献最大的队伍, 大家没有节假日,
休息日, 几乎是时时在流血, 天天有牺牲。”)」娯楽映画であるが、党・政府及び公安の宣伝のた
めの映画という側面を明確に有した作品であると言え、非常に中国的である。

2020年のドラマ「法網追撃（法網追撃）」:

南石市において、公安局局長廖芳華を始めとする警官たちが、捜査に力を尽くし、犯罪の証拠
を固め、犯罪者たちを捕えて裁判所に送る話。映画の最後で以下の字幕が出る。「数か月後、公
安局局長廖芳華が率いる公安警察官の捜査に対する努力のもと、薛風と蕭琳の犯罪集團の罪証は
確実となり、公訴され、南石に横行する犯罪勢力は一網打尽となった。林志航は、紀律委員會の
調査を経て、法にもとる行為はなかったため、再び元の職場に戻った。廖芳華は上が頒布する立
功勳章を受け取るのを断り、彼女は南石市の社会の混乱に対し、(みずからが)すべての責任を
とることを求め、かつ市委員會に処分を請求する報告を提出した。(数月后 在公安局长廖芳華带
领的全体公安干警的努力侦破下薛风和萧琳犯罪集团罪证确凿, 被提起公诉, 横行南石的黑恶势力
被一网打尽。林志航经纪委调查无违法违纪行为, 重返工作岗位。廖芳華拒绝接受上级颁发的立功
勳章, 她要求对南石市社会混乱承担全部责任, 并向市委递交了请求处分的报告。)」この字幕は、
廖芳華をはじめとする警官たちが、いかに真摯に努力して犯罪組織を摘発し、問題となる人物も
なかったことを述べるとともに、「廖芳華は上が頒布する立功勳章を受け取るのを断り、彼女は
南石市の社会の混乱に対し、(みずからが)すべての責任をとることを求め、かつ、市委員會に
処分を請求する報告書を提出した。」とあるあたりでは、廖芳華が人物としてもいかに立派であ
るかを示そうとしたものと言える。素晴らしい人物として警官を描くという中国的な特色が明確
に出ているように思われる。

2020年のドラマ「燃烧（燃燒）」:

親子三代にわたり迷宮入り事件に挑む警官のドラマ。高風の祖父・高四海は30年前、遺体がい実は別人のもので容疑者はまだ生きていると主張していたが、何者かに陥れられ、汚名を着せられた。高風の父・高建設もその事件を捜査したが、真相に近づく中で、事故と見せかけて殺害された。事件は解決済みとされた。30年後、女性の白骨遺体が発見されたのを機に、高四海と高建設が追っていた事件との関わりが浮上し、再捜査が始まった。警察を辞めた高風は、祖父と父の汚名をそそぐため、警察に協力し、事件の捜査を始め、事件を解決に導き、再び警官となる。このドラマの最終回のほぼ最後、警察署（龍湾公安分局）での新入警察官たちを歓迎する式典において、主人公・高風は壇上で代表として、前に座る数多くの警官たちの前で以下の挨拶の言葉を述べる。「(略) 私は事件の捜査・解決に協力する身分で、ある事件を捜査・解決する仕事に携わりました。この過程において、私はより近しく、私の祖父や父の警官としての人生に触れることとなり、初めて、彼らが支払った犠牲の後ろにある真の意義を身に沁みて感じさせられることとなりました。私は、私たちの着ているこの警官の制服の真の崇高な使命感をも理解しています。(略) 1990年の四零五毒殺事件と1996年の徐家福事件を通して、私は再度、私の祖父と父を理解させられ、私の祖父が当時、徐家福は死んでいないと言ったこの五文字（中国語では五文字）の分量と意義を理解させられ、私の父が真相のため、法の尊厳のため、命を捧げることを惜しまなかったことを理解させられました。私はこのような祖父と父を持ったことに誇りを感じます。この二百三十六日の制服のなかった日々に、私は、この制服が光栄と夢を代表し、痛苦と屈辱、流血と犠牲の重さを載せ、私たちの社会公衆に対する責任感と良心を代表し、法律の公正と尊厳を代表することを、真に身に沁みて理解しました。この制服は、あまねく天下の人が安心して生活し楽しんで仕事をするができるよう、彼らが楽しさと安寧を享受できるよう、彼らが一人のよい息子、よい夫、よい父、よい祖父となることができるようにするためのものです。この制服を見るたびに、私はいつも慙愧と自責の念を感じます。私は努力して優秀な人民警察の警官となります。(略) 私は、今後一日たりとも欠くことなく、私は彼らと同じく、心に信念を抱き、心に忠誠を抱き、公平正義のために奮闘することを保証し、そのために一生を捧げることを願っております。〔略〕我以协助办案的身份参与了一起案件的侦破工作。也是在这个过程当中，让我更加近距离的接触到我的爷爷和我的父亲他们的警务人生。让我第一次切身的感受到他们的付出和牺牲背后真正的意义。我也了解我们身上这身警服它真正的崇高的使命感。〔略〕在这两百三十六天里，通过一九九零年的四零五毒杀案和一九八六年的徐家福案，让我重新有机会了解了我和我父亲，了解了我和我爷爷当年说出徐家福没死这五个字的分量和意义，了解了我和我父亲为了真相，为了法律尊严不惜献出生命的意义。我为有这样的爷爷和父亲而感到骄傲。在这两百三十六天没穿警服的日子里，让我真正体会到这身警服代表着光荣和梦想，承载着痛苦和屈辱，流血和牺牲这身警服代表着我们对社会公众的责任和良心，代表着法律的公正和尊严。这身警服是为了普天下的人可以安居乐业，让他们可以享受快乐和安宁，可以让他们做一个好儿子，好丈夫，好父亲，好爷爷。每当看到这身警服，我都感到惭愧和自责。我要努力成为一名优秀的优秀的人民警察。〔略〕我保证 从今后一天也不会少，我会像他们一样心怀信念，心怀忠诚，我会像他们一样，为了公平正义而奋斗，愿意

为此付出一生。)」このドラマは、高風ら警官が人民警察警官の誓いの言葉を復習する（合唱する）場面で終わる。その言葉は以下のようなものである。「私は誓います！ 私は志願して中華人民共和国の人民警察の警官となり、崇高な人民公安の事業に身を捧げ、党に対する忠誠、人民への服務、公正な法の執行、厳正な紀律、志を変えないという誓いを断固としてやり遂げ、中国の特色ある社会主義事業の建設者・守護者となり、社会の大局の安定を守り保ち、社会の公平正義を促進し、人民が安心して生活し楽しく働けることを保障するため、努力奮闘します！（我宣誓！

我志愿成为中华人民共和国人民警察，献身于崇高的人民公安事业，坚决做到对党忠诚，服务人民，执法公正，纪律严明，矢志不渝，做中国特色社会主义事业的建设者，捍卫者，为维护社会大局稳定，促进社会公平正义，保障人民安居乐业而努力奋斗！）」そこで「宣誓終わり！ 敬礼！（宣誓礼毕！ 敬礼！）」との声があり、警官たちはみな敬礼し、高風も凛々しい表情と姿勢で敬礼する。なお、これらの最後の場面の少し前（最終回の終わり近く）に、以下のような場面もある。龍城市龍湾分局刑侦大隊大隊長の警官・馮凱は、そのもとで働く警官・方菲に、なぜ警官になろうとしたかを訊く。方菲は言う。「高校生の時、ある警官がチンピラ（若いならず者）から自分の家族の店を守ってくれたので、警官になることにした、警官がチンピラに何を言ったかは知らないが、それ以来チンピラが来ることはなくなった」（要約）と。馮凱は言う。「もし自分がその警官なら、『若者よ、正しい道を歩みなさい。よい人間になるのには、いつでも遅すぎることはない』と言う。私たちは人を捕まえられただけではいけない、人を救う必要もある」と。二人の会話からは、警官の人民を助け守ろうという強い社会的使命感（それはチンピラに対してすら適用される）が伝わってくる。この作品はよくできた作品で、決してプロパガンダ映画として片づけられるような作品ではないが、その制作には公安部宣伝局と山東省公安庁も関わっており、やはり公安を称えそのイメージを向上させるというプロパガンダの側面・要素も作品に現れていると言える。素晴らしい理想的な警官を描くという中国的な特色がやはり明確に出た作品といえる。

2020年のドラマ「功夫战警（功夫戦警）」：

特警（SWAT）の警官たちを描く作品。単に警官たちの高い捜査能力・事件解決能力だけでなく、社会正義意識の高さ、自己犠牲をも厭わぬ警官としての責任感、勇気、格闘能力の高さなどが描かれ、また、組織の中の矛盾や対立などは全く描かれておらず、このドラマにおいても、警官・警察は理想的な存在として描かれている。

2021年のネット映画「刑警本色」：

格闘において非常に強く、勇気があり、警察官としての強い使命感を持つ警官丁偉が主人公であり、他の警官たちも有能で強い使命感を持つ警官たちである。刑侦大隊隊長の王剛も、部下のことを考えてくれているよき上司であり、命の危険を顧みず身を挺して人質を救出し、犯人に銃撃されて殉職する、強い勇気や使命感をもつ素晴らしい警官である。この映画においても、映画の最後において、画面に以下の字幕が出る。「一代また一代と、人民警察の警官は交代して後を継いでゆくことを繰り返す。彼らは犯罪犯による生死の試練に向き合う勇気をもつ。彼らは人民

群衆の忠誠なる兵士となることを誓う。(一代又一代人民警察前赴后继, 循环往复, 他们勇于面对犯罪犯的生死考验, 他们誓做人民群众的忠诚兵士。)」そしてその後, 「联合摄制 (共同制作) 甘肃省公安厅 金昌市公安局 金昌市文化广电和旅游局 金昌市公安局金川分局」との字幕が現れて, この映画が終わる。公安の宣伝としての意味をもつ映画であるということが明瞭に見て取れる。この作品においても, 警官・警察は当然のことであるが, 理想的な存在として描かれている。

2021年のドラマ「刑警之海外行动 (刑警之海外行動)」:

優秀・有能だけでなく, 強い使命感で任務を執行して中国の法と人民を守り, 人民に支持され感謝される中国の警察が描かれている。最終話最後の中華人民共和国公安部表彰大会において, 強い使命感のもと任務を全うし海外に拠点を置く犯罪組織を一掃した捜査班の警官たちが, 居並ぶ多数の警察官たちの前で表彰され, 公安指導部及び中央・外交部 (日本で言うと外務省に当たる。)・在外公館などに感謝する場面は, 中国の公安警察官や警察組織・政府・中華民族などの素晴らしさを称えようとするものであり, 日本の作品にはまずなく, 中国的な場面と言える。この作品においても, 警官・警察は理想的な存在として描かれている。

2021年のネット映画「扫黑英雄 (扫黑英雄)」:

明德市公安副局長・楊棟やその部下たちの犯罪組織摘発における英雄的な働きを描く。楊棟は有能で正義感が強く勇気がある警官であり, よき父親でもあるが, 犯人を追う中, 心筋梗塞により殉職する。その葬儀において, 整列した多くの警官が, 雨に濡れることをも気にせず, 彼に向かって敬礼する。映画の最後, 厳粛な音楽の中で, 長々と字幕が流れ, 主人公のモデルとなった警官・楊春を称える。「楊春 (1969年5月—2019年1月23日) は, 生前は福建省寧徳市公安局蕉城分局党委委員・副局長・一級警長であった。1991年に職について以来, 楊春はすでに28年間にわたり警察の仕事に従事し, 所長・大隊長・副局長などを歴任した。2007年11月に刑事大隊大隊長に任じられて以来, 楊春は相次いで組織検挙各類の刑事事件3150件余りに参与した。暴力団一掃闘争において, 彼は相次いで暴力団一つ, 恶势力犯罪集团5つ, 恶势力犯罪グループ2つの壊滅を指揮し, 九種類の暴力団がらみの事件104件を解決し, 暴力団がらみの犯罪容疑者213人を捕えた。2017年末以来, 楊春は冠状動脈心臓病を患い, 併せて心筋梗塞の予兆がある状況において, 仕事のため, 手術による治療を3回延期した。2019年1月23日, 楊春は深夜, 人を率いて当直していた際, 心筋梗塞の発作が起こり, 49歳の命が永遠に暴力団掃討闘争の状況のまま静止することとなった。2020年10月までにおいて, 党中央部署が暴力団一掃闘争を展開して以来, 全国の公安で暴力団としての性質を持つ組織計3334, 恶势力犯罪集团10449を壊滅させ, 人民群衆が安穩に暮らし楽しく働くのを保障し, 社会が長きにわたって治まるのを守った。〔楊春 (1969年5月—2019年1月23日) 生前系福建省宁徳市公安局蕉城分局党委委員, 副局长, 一级警长。从1991年入职算起, 杨春已从警28载, 先后担任所长, 大队长, 副局长等职务。自2007年11月任刑侦大队大队长以来, 杨春先后参与, 组织侦破各类刑事案件3150多起。在扫黑除恶专项斗争中, 他先后指挥打掉黑社会组织一个, 恶势力犯罪集团5个, 恶势力犯罪团伙2个, 破获九类涉黑案件

104起，抓获涉黑恶犯罪嫌疑人213人。2017年底开始，杨春在身患冠心病并伴有心肌梗塞先兆的情况下，为了工作三次推迟手术治疗。2019年1月23日，杨春深夜带班值守时突发心梗，49岁的生命永远定格在扫黑除恶专项斗争中。截止至2020年10月，当中央部署开展扫黑除恶专项斗争以来，全国公安机关共打掉黑社会性质组织3334个，恶势力犯罪集团10449个。保障人民群众安居乐业，维护社会长治久安。』その後、「共同制作 公安部ニュース宣伝局 中国映画家協会（联合摄制 公安部新聞宣伝局 中国电影家协会）」という文字が現れて、映画が終わる。この映画は娯楽映画ではあるが，公安によるその宣伝の意味をもつ映画でもある。民主主義国にはまずない性質を持つ映画だと言える。警官がすばらしい存在として描かれているのも当然のことと言えよう。

2021年のネット映画「猎毒之闪狙行动（獵毒之閃狙行動）」：

中国の麻薬取締警察官たちが国際的な麻薬密売組織と激しい戦いを展開し勝利を得る話。登場する警官たちは，強い使命感和勇敢さをもったすばらしい警官たちである。警官・王鑫は，残忍な売人・許達宏との一対一での戦いの際，許に，「われわれで取引をしよう，あんたが俺を逃がせば，私はあんたに一億をやり金持ちにしてやる」と話を持ちかけられ，そんなに命懸けになることあるのかと，言われる。王は，「おまえは何が人民警察の警官であるか知っていない。人民警察の警官は，民衆を保護しなくてはならず，おまえらのようなくずの賄賂は受けない。それが使命であり，栄誉である」と言う。許が，「警官だって一つの命しかない」と言うと，王は「一つの命でも，おまえとは命懸けでとことんやるつもりだ」と言う。娯楽映画ではあるが，警察の宣伝のための映画という側面をも明確に有する作品でもある。なお，この作品においては，実際の警官（広東省陽江市公安局特警支隊の警官，副支隊長・李紹進と一組の組長・劉国柱）が，麻薬取締大隊の2名の重要な隊員を演じている。（「电影《猎毒之闪 行动》海陵开机！ 阳江两民警出演」阳江日报网2021年3月18日 <https://news.yjrb.com.cn/articles/yaowen/20210318/230529.html>）これも制作サイドと公安が関係を有していることの表れであろう。

2021年のドラマ「谁是凶手（誰是凶手）」：

冷小兵をはじめとする警官が17年前に起こった連続殺人事件を解決する話。この作品においても，冷小兵は，最終回の最後で（ただし，その後に字幕のみの画面はある。），かつての同僚（先輩）警官・李嵐と恩師であった警官・陳大明二人の墓に墓参する。捜査の過程で犯人と格闘して殉職した李嵐の墓には，以下のように記されている。「李嵐烈士の墓/ 生涯/ 1967年5月6日生まれ，海舟市の人。2000年9月2日，海舟事件を捜査する過程で悪人と英雄的に勇敢に格闘し，壮烈に犠牲となった。時に満33歳だった。……（李嵐烈士之墓/ 生平/ 生于一九六七年五月六日，海舟市人，于二零零零年九月二日在侦察海舟案过程中与歹徒英勇搏斗壮烈牺牲，时年三十三周岁。……）」なお，陳大明についてであるが，第1回において，彼が冷小兵と二人で話をする場面がある。冷小兵が犯人に銃を撃てず，李嵐が犯人に殺害され，犯人を逃してしまったことから陳大明は降格となったのであるが，その際，陳はその責任感から，その咎を辞し難いと，自ら言う。冷小兵が咎を辞し難いのは自分であると言うと，陳は，それを遮り，責任は心の中に置き，前に向かっ

て進まないといけない、と言う。冷小兵がなぜ自分を弟子にしたのかと陳大明に訊くと、陳は、ほとんどの者は警官として適格でなかったり、辛さや危険を嫌がる者もあり、消えていったが、お前は去らなかったではないか、と言う。冷小兵は、刑事になるのは自分の理想なのだ、と言う。陳大明は、私が必要とするのは、どこまでも事件を追及し、諦めない人間であり、どれほど面倒があろうと、人が何を言おうと、どれだけ年月を経ようと、ずっと捜査を続け、犯人を捕らえるまで絶対に諦めてはいけない、お前に任せるよ、と言う。陳大明は、警官としての強い責任感・使命感を持った人物であり、上司としても素晴らしい人物である。冷小兵による墓参の場面の後、「謹んでこの映画を無私で人民の家の庭（人民の住む社会）を守る英雄的な刑事たちに献じる（謹以此片献给无私捍卫人民家园的刑侦英雄们）」との字幕が現れる。この映画は、全体として見て、警官たちが英雄的にまで素晴らしいといった作品であるとは言えないが、警官・警察のマイナス面を描く部分もなく（冷小兵が駆け出しの頃に犯人を銃で撃てずに逃がしてしまったことや、警官・夏木が家族同然に暮らしていた先生を殺害されたことから精神に障害を負っていたことなどはあるものの、それは視聴者が彼らのマイナスの部分だと感じて彼らへの評価を下げることに繋がるようなものではないと思われる。）、また上述の場面・字幕で終わることから見ても、この作品が警官を人民を守る英雄的な存在として称えようとしている、ないしそうした姿勢を見せようとしていることが見て取れる。

日本の映画やドラマで、上述の中国の映画・ドラマのような形で、警官の素晴らしさを明確に視聴者に伝えよう、PRしようとするような作品はまずないと思われる。中国の犯罪・ミステリー系映画が、もちろん上記のように、警官を非常に明確に模範的のすばらしい警官として描く（あるいはPRしようとする）作品ばかりではないことは言うまでもないが、模範的のすばらしい警官を描く作品は少なくなく、上記はあくまでもそれが特に明確に表れた一部の例にすぎないとも言える。（とりわけ、推理中心の作品よりも、警察による犯罪摘発を中心に描く映画・ドラマに、こうした傾向がはっきりと見られる作品が強いように思われる。）

実は中国映画においても、犯罪者である警官が出てくる作品は存在しないわけではなく、表3・日中映画比較表の項目15「警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）」における中国の○のパーセンテージが5%であるのは、37作品中2作品において警察官が犯罪者であったということを表している。

しかし、うち1作品「記憶大師（記憶大師）」において描かれているのは、近未来のアジアのN国における話であり、現在の中国を舞台とした話ではない。中国の警官・警察に対する批判につながるのを避けようという配慮が働いたものではないかとも思われる。

表1にある中国映画の中で、犯罪者である中国の正規の警官が出てくる作品は、「绑架者」ただ1作品のみである。

この作品において、主人公は娘を誘拐された警官である。（臓器販売組織は臓器を得るために児童誘拐を行っていた。）犯人かと思われた被疑者は、記憶を喪失していたが、実は捜査のため

に犯罪組織に潜伏した警官（鄧家明）であった。主人公と親しい同僚警官の陸然は、警官でありながら、姉が臓器移植できるよう犯罪組織と取引し繋がっていた。中国（大陸）の警官が犯罪者であるわけであるが、しかし、鄧家明が立派な警官として描かれているため、全体としてみると、警察や警官が悪く描かれているようには見えない。事件解決後、警察は鄧家明を表彰する。表彰式において、鄧家明は数多くの警官たちの前で、「鄧家明警官は、個人の安危を顧みることもなく、身を捨てての正義は、民衆に恩恵を与え、児童誘拐集団を検挙することに成功した。（鄧家明警官不顾个人安危，舍身之义嘉惠民众，成功破获儿童绑架集团。）」として称えられる。悪役警官を登場させ中国の警官のイメージを悪化させかねない要素があることを、こうした場面によって補おうとしているもののようにも思われる。

ところで、今回の調査対象作品ではなく、映画でもないが、2018年の中国ドラマ「破冰行動（ドラッグ・ウォーズ）」は、麻薬製造・密売の跋扈する東山市（その塔寨村は、村全体がグルになっている麻薬の巢窟であり、東山に強力な人脈の盾を持ち、警官が簡単には立ち入ることのできぬ要塞のような村である。）を舞台とした事実に基づく話であり、この作品においても、麻薬密売組織と内通する警官がでてくる。しかし、李飛や広東省公安厅麻薬取締局副局长・李維民、東山市公安局薬物取締隊隊長・蔡永強、馬雯その他の警官たちが、犯罪組織の巨大な力の前で、大きな困難に直面し危険に晒されつつも、強い正義感・責任感をもって犯罪者集団と対決する。危険の中で任務を果たそうとする李飛らの勇気には素晴らしいものがある。同情すべき気の毒な理由から脅されて麻薬製造・密売組織と内通してしまう東山市公安局副局长・馬雲波も、悩みつつも、警察官としての正義感・良心・責任感のあるところをも強く示している。（同じく麻薬製造・密売組織と内通した警官・陳光栄は、作品における重要な役柄を担っているとは言えず、途中で殺され、存在感は小さい。）作品全体としてみると、警官・公安への信頼を損なうような作品にはなっていない。

また、2020年公開のドラマであり、今回の調査対象期間（2018年まで）より後の作であり、映画でもないが、中国ドラマ「沈黙の真相（ロング・ナイト 沈黙の真相）」にも、犯罪に関与した卡恩集団（卡恩グループ）の孫伝福会長や胡一浪理事らに懐柔された警察官・李建国が、真相を明らかにしようとする検察官・江陽や警察官・朱偉らの捜査を妨害し、犯罪のもみ消しを行う。しかし、江陽や朱偉らは正義感から、危険や困難にもめげず、勇気をもって真相を明らかにしようとする。そうした朱偉（すでに警官ではなくなっていたが。）らも、真相を明らかにするため、騒ぎを起こして警察に捜査を促そうとし、事件を起こす。（ただし、人的被害などは出ないように十分配慮している。）それを警官の厳良・仁珣婷らが強い責任感で捜査してゆく。この作品においても警官が犯罪に関わっている。ただし、朱偉は罪を犯したとはいえ、基本的に正義感に溢れた善人として描かれている。（第9話で、地元の政府の幹部・高副庁長も公安の幹部・趙局長に対し、「朱偉の陳述を聞いて心がひどく傷んだ。一人の刑事と一人の検察官が長年かけて証拠を集めて証人を保護し、身を投じて冤罪に立ち向かった。法の執行人が守るべき正義と本分だ」と言っている。また、最終話第12話の最後に、刑期を終えた朱偉らが厳良とともに江陽の墓参りをする場面がある。これはこの映画が朱偉らを基本的に善人として描いていることの証とも言える。江

陽や朱偉らの正義を貫こうとする思いや行為は、この作品において最も心を打つ部分と言えるかもしれない。) また、高副庁長や趙局長らは、真に模範的と言うべき尊敬すべき素晴らしい人物として描かれている。例えば、第9話で、趙局長が地元の大企業である卡恩集団の捜査に手を付けようとして、高副庁長に卡恩集団の暗部の問題を伝え、「もし卡恩集団が転落すれば市の経済界に激震が走る可能性が高い」と述べた折、高副庁長は、「いかに事件が大きかろうと累の及ぶ人間が多かろうと(複雑になろうと)、どこまでも徹底的に捜査し、決して手を緩めてはならない。私の携帯は24時間電源を入れておく。いかなる困難も、いつでも直接私に報告してくれ。すぐに解決してやる」と言い、趙局長は、「警察学校を卒業したばかりの時に私の恩師が最も多く口にしたのは、『人民警察』4文字です。必要なのは警察ではなく、人民です」と述べている。) また、嚴良や仁玥婷は、責任感のある優秀な警官である。最終回12話の最後近くで、嚴良・仁玥婷・顧一名・馬小林ら警官が、事件解決により表彰される。嚴かな中、数多くの警察官の前で、その拍手の中、前に出て、敬礼する。警察・警官の威厳を示す場面と言える。全体として見ると、このドラマは、全く警察や政府に対する不信感が増幅されるような作品ではなく、むしろ警察のすばらしさが伝わってくる作品であるように思われる。

なお、やはり今回の調査対象作品ではなく、映画でもないが、2014年公開のドラマ「暗黒者(暗黒者1)」(原作は周浩暉の『死亡通知単:暗黒者』)は、ある都市で、darkerと名乗る殺人鬼が、法で裁けない犯罪者を私刑による殺害という形で罰していき、警察がdarkerの連続殺人を止めるためチームを立ち上げ事件解決のため尽力する作品であるが、この作品においては、市の刑事大隊隊長の韓灝が、強盗犯・彭広福らとの戦いにおいて、誤って同僚警官・鄒緒を銃で撃ち殺してしまう。自らの過ちを隠蔽するため、より大きな過ちを起こすようになり、弱みを握ったDarkerに利用されるようになってしまう。この作品においても、ある都市でのことではあるが、末端ではない一定の地位にはある警官が犯罪に関わっている。主役級人物ではなく多くいる重要な登場人物のうちの一人といったところではあるが、このような人物が登場する点、中国のドラマに警官が犯罪に加担する作品も存在するというを示している。ただし、『暗黒者』はそのシリーズにおいて、darkerは一つの組織であり、構成員は何人もいるということが次第に明らかになっていくが、第3集まで見た限りでは、その中に警官はいない。警官に対する不信感が増幅されたり、警察の権威が傷つけられるような作品にはなっていないように思われる。

一般的に言って、中国の映画やドラマで自国の共産党政権下における警察・警察官の権威や人々の警察・警察官への信頼を傷つける作品はほぼない、あるいは、自国の共産党政権下における警察・警察官の権威や人々の警察・警察官への信頼を明確に傷つける作品はない、と言ってよいと思われる。

上述のように、中国映画は、警官を正義感に満ちた立派な存在として描く傾向が強いという点において、日本映画と少なからぬ差があるように思われる。これは表1に取り上げた作品以外の上述の作品の例からも分かるように、単に表を作成して調査した2010年から2018年までの作品に見られる傾向と言うよりは、2021年末の現在にまで明確に続いている傾向ということができる。

2-1において述べた中国の映画基準についての規定「电影剧本〈梗概〉备案, 电影片管理规定」
「十四, 映画に以下の下に列举した内容があれば, 削除して修正すべきである。:(电影片有下列
情形, 应删剪修改:) …… (二) 恶意をもって人民軍隊・武装警察・公安及び司法のイメージを
損ねるもの:(恶意贬损人民军队, 武装警察, 公安和司法形象的;)」が中国における映画制作に
大きな影響を与えていると思われ, 今後も中国において政治的な制約がある中では, 警察・警察
官に対する人民の信頼やイメージを明確・決定的に毀損するような作品が出てくることはないだ
ろうと思われる。このことが日中の作品の大きな差を生み出しているように思われる。

注

- 1) 「日本の大衆文化と日中交流」『人民中国』編集長・王衆一, 2005年
<https://123deta.com/document/qmwx808z-untitled.html>
- 2) https://style.nikkei.com/article/DGXNASFK1103L_R11C11A0000000?channel=DF280120166614
- 3) 公式ホームページである作家榜官方网站<http://zuojiabang.cn/Ranking>による。
- 4) 百度百科: 全国侦探推理小说大赛
<https://baike.baidu.com/item/%E5%85%A8%E5%9B%BD%E4%BE%A6%E6%8E%A2%E6%8E%A8%E7%90%86%E5%B0%8F%E8%AF%B4%E5%A4%A7%E8%B5%9B>
- 5) 中国知网: 第五届东方侦探推理小说大奖赛启事—《东方剑》2009年01期
<https://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTotal-DFJA200901005.htm>
- 6) 第三届华文推理大奖赛征文启事
维普期刊官网—中文期刊服务平台 <http://qikan.cqvip.com/Qikan/Article/Detail?id=666309250>
- 7) 第一届中国原创推理星火奖征文公告
https://www.baidu.com/link?url=E_SrcyCQxtcdU9RTthPMRnjdTUi1JVqeaDGKPR3zIEExXPg1F5EHZe1sw2Q8ROh8F&wd=&eqid=d6f2da12000ab24700000006620decdf
- 8) 首届‘华斯比小说奖’征稿启事
https://www.douban.com/note/660854508/?_i=5080495iaD5_0k

以下に, 「名古屋学院大学論集 (言語・文化篇)」Vol.32 「犯罪・ミステリー映画の日中比較 (2)」に関
する修正をしておきたい。

p39・14行目 「36 殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。」を「36 快楽殺人・快楽犯罪(殺人未遂を含む)。」に修正。

p45表 作品⑩(土竜の唄・潜入捜査官REIJI) 第45項目: 記入漏れしていたが, 「×」に修正。

作品⑩(土竜の唄・潜入捜査官REIJI) 第50項目: 「×」を「○」に修正。